

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6008729号
(P6008729)

(45) 発行日 平成28年10月19日 (2016. 10. 19)

(24) 登録日 平成28年9月23日 (2016. 9. 23)

(51) Int. Cl.

A O 1 K 23/00 (2006.01)

F 1

A O 1 K 23/00

Z

請求項の数 12 (全 57 頁)

(21) 出願番号 特願2012-272390 (P2012-272390)
 (22) 出願日 平成24年12月13日 (2012. 12. 13)
 (65) 公開番号 特開2014-117184 (P2014-117184A)
 (43) 公開日 平成26年6月30日 (2014. 6. 30)
 審査請求日 平成27年10月30日 (2015. 10. 30)

(73) 特許権者 000115108
 ユニ・チャーム株式会社
 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地
 (74) 代理人 100105120
 弁理士 岩田 哲幸
 (74) 代理人 100106725
 弁理士 池田 敏行
 (72) 発明者 小松原 大介
 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7
 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
 ター内
 審査官 坂田 誠

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ペット用使い捨ておむつ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ペット用使い捨ておむつであって、

背側胴周り域と、腹側胴周り域と、前記背側胴周り域と前記腹側胴周り域の間に位置する股下域と、前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着されていない状態において、前記背側胴周り域と前記股下域と前記腹側胴周り域が連続する方向であるおむつ長手方向と、前記おむつ長手方向と交差する方向であるおむつ長手交差方向と、

前記おむつ長手方向上における両端部と、前記おむつ長手交差方向上における両端部と、

前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着された状態において、ペット側へ向けられる内側表面と、

前記内側表面と対向する表面である外側表面と、

前記おむつ長手方向の所定領域に設けられた尻尾挿通開口と、

前記おむつ長手方向において前記尻尾挿通開口の一方側に形成され、前記股下域と前記腹側胴周り域の所定領域に配置される吸収性コアと、

前記吸収性コアが配置されていない領域である吸収性コア非配置領域と、

前記腹側胴周り域に設けられるとともに所定の長さを有する止着部と、

前記止着部に設けられたフック部と、前記背側胴周り域の前記外側表面に設けられるとともに前記止着部の前記フック部を受

ける止着領域と、
を有し、

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットへ装着する状態においては、前記背側胴周り域が前記ペットの背に密接されつつ、前記股下域および前記腹側胴周り域が前記ペットの股間乃至腹に被覆されるとともに、前記止着部が前記止着領域に止着され、

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットが装着している状態においては、排泄時の前記吸収性コアの重量が前記止着部の長手方向で受けられ、

前記止着領域が、少なくとも前記背側胴周り域の前記吸収性コア非配置領域における前記おむつ本体部の外側表面に配置された不織布による第1の止着領域にて形成され、

前記第1の止着領域における外側表面方向には、前記第1の止着領域よりも前記止着部のフック部との係合力が高く形成された第2の止着領域が配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

10

【請求項2】

請求項1に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記おむつ長手交差方向において、前記おむつ長手交差方向上の両端部を結んだ仮想直線の内、最も短い仮想直線となる前記おむつ長手交差方向上の両端部における点である一対のおむつ最短幅点と、

前記一対のおむつ最短幅点を通過するおむつ長手方向における直線である一対の仮想境界線と、

前記一対の仮想境界線同士の内側領域である本体部と、

20

前記背側胴周り域における前記一対の仮想境界線の外側領域に形成された前記背側フラップ部と、

前記腹側胴周り域における前記一対の仮想境界線の外側領域に形成された前記腹側フラップ部と、を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【請求項3】

請求項1または2に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域が、前記外側表面の全体に配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【請求項4】

請求項1または2に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域が、前記背側胴周り域における前記おむつ本体部と前記背側フラップ部とに亘る前記外側表面に配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

30

【請求項5】

請求項1または2に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域が、前記背側胴周り域における前記おむつ本体部の前記外側表面に配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【請求項6】

請求項1～5のいずれか1項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域は、

熱可塑性繊維と、

40

第1の方向に延びるとともに、前記熱可塑性繊維が溶融されて形成された第1の溶着部と、

複数の前記第1の溶着部により形成される第1の溶着部群と、

前記第1の溶着線部の内、隣り合う第1の溶着線により形成される第1の隣接溶着部群と、

前記第1の方向と交差する方向である第2の方向に延びるとともに、前記熱可塑性繊維が溶融されて形成された第2の溶着部と、

複数の前記第2の溶着部により形成される第2の溶着部群と、

前記第2の溶着部群の内、隣り合う第2の溶着部により形成される第2の隣接溶着部群と、

50

互いに交差する前記第 1 の隣接溶着部群と、前記第 2 の隣接溶着部群とにより囲まれる平行四辺形の領域である囲繞部と、

前記第 1 の方向および前記第 2 の方向と交差する方向である第 3 の方向に延びるとともに、前記熱可塑性繊維が溶融されて形成され、前記囲繞部に配置される第 3 の溶着部と、複数の前記第 3 の溶着部により形成される第 3 の溶着部群と、

前記第 3 の溶着部群の内、隣り合う第 3 の溶着部により形成される第 3 の隣接溶着部群と、

前記第 1 の溶着部と前記第 3 の溶着部とに亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部の前記フック部に着脱自在に係止される第 1 のループ部と、

前記第 2 の溶着部と前記第 3 の溶着部とに亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部の前記フック部に着脱自在に係止される第 2 のループ部と、
を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【請求項 7】

請求項 6 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 3 の方向は、前記おむつ長手方向と平行であることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【請求項 8】

請求項 6 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 3 の方向は、前記囲繞部を形成する前記平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線と平行であることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【請求項 9】

請求項 6 ～ 8 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 3 の溶着部は、前記囲繞部を形成する前記平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線上に形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【請求項 10】

請求項 6 ～ 9 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記囲繞部は、一片の長さが 2 ～ 10 mm の範囲にあることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【請求項 11】

請求項 6 ～ 10 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 1 の溶着部と、前記第 2 の溶着部と、前記第 3 の溶着部とが前記止着領域の前記外側表面から窪んだ状態にあることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【請求項 12】

請求項 1 ～ 11 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記背側胴周区域における前記吸収性コア非配置領域の前記おむつ長手交差方向に、伸長状態で配置される胴周用伸縮性弾性部材を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ペット用使い捨ておむつに関する。

特に、ペットの胴周りに対するフィット性に優れたペット用使い捨ておむつに関する。

【背景技術】

【0002】

犬や猫に代表されるペットを、家屋内で飼育することは一般的である。このため、種々のペット用使い捨ておむつが販売されている。例えば、特開 2004-159591 号に示される構造のペット用使い捨ておむつが提案されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

10

20

30

40

50

【特許文献1】特開2004-159591号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

図51～図52により、特開2004-159591号に記載されたペット用使い捨ておむつを説明する。図51はペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図、図52はペット用使い捨ておむつをペットに装着した状態の説明図である。

ペット用使い捨ておむつ1000は、液透過性シート9910と、液抵抗性シート（図示せず）と、この液透過性シート9910と液抵抗性シートの間に配置された吸収性コア2000とにより構成される。

液透過性シート9910は液透過性の不織布により形成される。液抵抗性シートは液不透過性プラスチックフィルムにより形成される。吸収性コア2000は、パルプなどの吸液性繊維と、高吸収性ポリマーとの混合物により形成される。

【0005】

ペット用使い捨ておむつ1000は、腹側胴周り域1110と、背側胴周り域1130と、腹側胴周り域1110と背側胴周り域1130の間に位置する股下域1120を有する。

ペット用使い捨ておむつ1000は、腹側胴周り域1110と股下域1120と背側胴周り域1130に連続されるおむつ長手方向を有する。また、おむつ長手方向と交差するおむつ長手交差方向を有する。

【0006】

おむつ長手方向上において、腹側胴周り域1110には端部1110Aが形成され、背側胴周り域1130には端部1130Aが形成される。

腹側胴周り域1110には腹側フラップ部1150が形成される。腹側フラップ部1150は背側端部1150Bを有する。この背側端部1150Bは、腹側フラップ部1150におけるおむつ長手交差方向の端部から、吸収性コア2000の端部2220におけるおむつ長手交差方向上の位置にわたり連続して設けられる。

ペット用使い捨ておむつ1000をペットに装着した場合、腹側フラップ部1150はペットの脚a1に対して比較的長い距離にて接する。

腹側フラップ部1150には多数のフックを備えた止着部3000が配置される。

【0007】

腹側胴周り域1110から股下域1120に亘る所定の領域内に、吸収性コア2000が配置される。吸収性コア2000が設けられていない股下域1120と背側胴周り域1130の所定位置に、尻尾挿通開口1190が設けられる。

背側胴周り域1190の所定位置にはターゲットテープからなる止着領域9000が構成される。ペット用使い捨ておむつ1000をペットに着用する場合、止着部3000のフックを、止着領域9000へ係合させる。

背側胴周り域1130には背側フラップ部1160が設けられる。

【0008】

ペット用使い捨ておむつ1000におけるおむつ長手交差方向上の端部付近には脚周用伸縮性弾性部材4000が配置される。この脚周用伸縮性弾性部材4000が収縮することにより、図52に示す脚周りギャザー4410が形成される。この脚周用伸縮性弾性部材4000はおむつ長手方向において、腹側胴周り域1110の一部から股下域1120に亘り配置される。この結果、脚周用伸縮性弾性部材4000の収縮力は、腹側胴周り域1110の端部1110Aおよび背側胴周り域1130の端部1130Aには影響を及ぼさない。

【0009】

ペット用使い捨ておむつ1000におけるおむつ長手交差方向上の端部から内側に亘り、防漏シート8000が配置される。防漏シート8000には防漏シート用伸縮性弾性部材6000が配置される。この防漏シート用伸縮性弾性部材6000が収縮することによ

10

20

30

40

50

り、図示しない防漏ギャザーと防漏壁が構成される。

なお、防漏シート用伸縮性弾性部材6000の腹側胴周り域側の端部は、使い捨てペット用おむつ1000の長手方向端部1110Aまで達していない。また、防漏シート用伸縮性弾性部材6000の背側端部は、尻尾挿通開口1190を超えて配置される。

【0010】

ペット用使い捨ておむつ1000をペットに装着する場合、背側胴周り域1130をペットの背にあて、股下域1120および腹側胴周り域1110をペットの股下および腹にあてる。この状態で、止着部3000を止着領域9000に固定する。

【0011】

一方、従来のペット用使い捨ておむつ1000においては、止着領域9000が限定された大きさであるため、止着部3000を止着する領域の自由度が低かった。そのため、使用者がペットαに対して的確にペット用使い捨ておむつ1000を装着することができない場合があった。このような場合には、ペット用使い捨ておむつ1000がペットαの胴周りに対してフィットせずに、結果として排泄物の漏れを生ずる場合があった。

【0012】

本発明は、このような点に鑑みて創案されたものであり、ペットの脚周りに対し良好にフィットするペット用使い捨ておむつを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0013】

上記課題を解決するため、本発明に係るペット用使い捨ておむつの好ましい形態によれば、背側胴周り域と、腹側胴周り域と、前記背側胴周り域と前記腹側胴周り域の間に位置する股下域と、前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着されていない状態において、前記背側胴周り域と前記股下域と前記腹側胴周り域が連続する方向であるおむつ長手方向と、前記おむつ長手方向と交差する方向であるおむつ長手交差方向と、前記おむつ長手方向上における両端部と、前記おむつ長手交差方向上における両端部と、前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着された状態において、ペット側へ向けられる内側表面と、前記内側表面と対向する表面である外側表面と、前記おむつ長手方向の所定領域に設けられた尻尾挿通開口と、前記おむつ長手方向において前記尻尾挿通開口の一方側に形成され、前記股下域と前記腹側胴周り域の所定領域に配置される吸収性コアと、前記吸収性コアが配置されていない領域である吸収性コア非配置領域と、前記腹側胴周り域に設けられるとともに所定の長さを有する止着部と、前記止着部に設けられたフック部と、前記背側胴周り域の前記外側表面に設けられるとともに前記止着部の前記フック部を受ける止着領域と、を有する。

さらに、前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットへ装着する状態においては、前記背側胴周り域が前記ペットの背に密接されつつ、前記股下域および前記腹側胴周り域が前記ペットの股間乃至腹に被覆されとともに、前記止着部が前記止着領域に止着される。

さらに、前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットが装着している状態においては、排泄時の前記吸収性コアの重量が前記止着部の長手方向で受けられる。

さらに、前記止着領域が、少なくとも前記背側胴周り域の前記吸収性コア非配置領域における前記おむつ本体部の外側表面に配置された不織布による第1の止着領域にて形成されている。

さらに、前記第1の止着領域における外側表面方向には、前記第1の止着領域よりも前記止着部のフック部との係合力が高く形成された第2の止着領域が配置されている。

【0014】

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記おむつ長手交差方向において、前記おむつ長手交差方向上の両端部を結んだ仮想直線の内、最も短い仮想直線となる前記おむつ長手交差方向上の両端部における点である一対のおむつ最短幅点と、該一対のおむつ最短幅点を通過するおむつ長手方向における直線である一対の仮想境界線と、該一対の仮想境界線同士の内側領域である本体部と、前記背側胴周り域における前記一対の仮想境界線の外側領域に形成された前記背側フラップ部と、前記腹側胴周り域における前記一対の仮想

境界線の外側領域に形成された前記腹側フラップ部と、を有する。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記第1の止着領域が、前記外側表面の全体に配置されている。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記第1の止着領域が、前記背側胴周り域における前記おむつ本体部と前記背側フラップ部とに亘る前記外側表面に配置されている。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記第1の止着領域が、前記背側胴周り域における前記おむつ本体部の前記外側表面に配置されている。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記第1の止着領域は、熱可塑性繊維と、第1の方向に延びるとともに、該熱可塑性繊維が溶融されて形成された第1の溶着部と、複数の前記第1の溶着部により形成される第1の溶着部群と、該第1の溶着線部の内、隣り合う第1の溶着線により形成される第1の隣接溶着部群と、前記第1の方向と交差する方向である第2の方向に延びるとともに、前記熱可塑性繊維が溶融されて形成された第2の溶着部と、複数の前記第2の溶着部により形成される第2の溶着部群と、前記第2の溶着部群の内、隣り合う第2の溶着部により形成される第2の隣接溶着部群と、互いに交差する前記第1の隣接溶着部群と、前記第2の隣接溶着部群とにより囲まれる平行四辺形の領域である囲繞部と、前記第1の方向および前記第2の方向と交差する方向である第3の方向に延びるとともに、前記熱可塑性繊維が溶融されて形成され、前記囲繞部に配置される第3の溶着部と、複数の前記第3の溶着部により形成される第3の溶着部群と、前記第3の溶着部群の内、隣り合う第3の溶着部により形成される第3の隣接溶着部群と、前記第1の溶着部と前記第3の溶着部とに亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部の前記フック部に着脱自在に係止される第1のループ部と、前記第2の溶着部と前記第3の溶着部とに亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部の前記フック部に着脱自在に係止される第2のループ部と、を有する。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記第3の方向は、前記おむつ長手方向と概ね平行である。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記第3の方向は、前記囲繞部を形成する前記平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線と平行である。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記第3の溶着部は、前記囲繞部を形成する前記平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線上に形成されている。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記囲繞部は、一片の長さが2～10mmの範囲にある。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記第1の溶着部と、前記第2の溶着部と、前記第3の溶着部とが前記止着領域の前記外側表面から窪んだ状態にある。

また本発明に係る解決手段の一態様として、前記背側胴周り域における前記吸収性コア非配置領域の前記おむつ長手交差方向に、伸長状態で配置される胴周り用伸縮性弾性部材を有する。

【発明の効果】

【0015】

本発明では、止着領域が、少なくとも背側胴周り域におけるおむつ本体部の外側表面に配置された不織布による第1の止着領域にて形成されている。

よって、係止部が係止できる領域を拡大することができる。したがって、ペット用使い捨ておむつは、ペットの胴周りに対し良好にフィットする。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明の第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図2】吸収コア非配置領域を示すペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図3】止着部の構成を示す説明図である。

- 【図４】フラップ部の構成を示す説明図である。
- 【図５】背側フラップ部の構成を示す説明図である。
- 【図６】識別領域の構成を示す説明図である。
- 【図７】止着領域の構成を示す拡大図である。
- 【図８】止着領域の作用を示す説明図である。
- 【図９】腹側フラップ部の好適な構造を特定するための測定に係る説明図である。
- 【図１０】ペット用使い捨ておむつとペットの脚との関係を表わす説明図である。
- 【図１１】防漏シート固定部を示すペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。
- 【図１２】図１におけるＡ－Ａ線断面図である。 10
- 【図１３】図１におけるＢ－Ｂ線断面図である。
- 【図１４】図１におけるＣ－Ｃ線断面図である。
- 【図１５】脚周り用伸縮性弾性部材と胴周り用伸縮性弾性部材の構成を表わす説明図である。
- 【図１６】脚周り用伸縮性弾性部材と胴周り用伸縮性弾性部材の作用を表わす説明図である。
- 【図１７】図１におけるＤ－Ｄ線断面図に係る説明図である。
- 【図１８】ペット用使い捨ておむつをペットに装着する際の背側胴周り域に係る説明図である。
- 【図１９】ペット用使い捨ておむつをペットに装着する際の腹側胴周り域に係る説明図である。 20
- 【図２０】ペット用使い捨ておむつをペットに装着した状態の説明図である。
- 【図２１】本発明の第２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図２２】本発明の第３の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図２３】本発明の第４の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図２４】本発明の第５の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図２５】本発明の第６の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図２６】本発明の第７の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図２７】本発明の第７の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの作用を示す説明図である。 30
- 【図２８】本発明の第８の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図２９】本発明の第９の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図３０】本発明の第１０の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図３１】本発明の第１１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図３２】本発明の第１２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの説明図である。
- 【図３３】本発明の第１３の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。
- 【図３４】本発明の第１４の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。
- 【図３５】本発明の第１５の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。 40
- 【図３６】本発明の第１６の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。
- 【図３７】本発明の第１７の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの拡大図である。
- 【図３８】本発明の第１７の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの作用を示す説明図である。
- 【図３９】本発明の第１８の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの拡大図である。
- 【図４０】本発明の第１９の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの拡大図である。
- 【図４１】本発明の第２０の実施形態に係るペット用使い捨ておむつの拡大図である。
- 【図４２】本発明の第２１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平 50

面図である。

【図４３】本発明の第２２の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図４４】本発明の第２３の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図４５】本発明の第２４の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図４６】本発明の第２５の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図４７】本発明の第２６の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。 10

【図４８】本発明の第２７の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図４９】本発明の第２８の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図５０】本発明の第２９の実施形態に係るペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図５１】従来技術のペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。

【図５２】従来技術のペット用使い捨ておむつをペットに装着した状態の説明図である。

【発明を実施するための最良の形態】 20

【００１７】

（第１の実施形態）

以下に、本発明の第１の実施形態を図１～図２０により説明する。

【００１８】

図１はペット用使い捨ておむつを展開した状態の平面図である。本実施の形態において「ペット」とは、脊椎動物（哺乳類、爬虫類、鳥類、両性類）や無脊椎動物を広く包含するが、典型的には猫、犬、ウサギ、ハムスター、馬、牛、豚、山羊といった愛玩動物がこれに該当する。本実施の形態において、「展開した状態」もしくは「展開状態」とは、ペットに装着されていない状態のペット用使い捨ておむつを解放し、伸縮性弾性部材の収縮力が発現していない状態を示す。 30

【００１９】

ペット用使い捨ておむつ１０は、腹側胴周り域１１０と、背側胴周り域１３０と、腹側胴周り域１１０と背側胴周り域１３０の間に配置される股下域１２０を有する。ペットがペット用使い捨ておむつ１０を着用した場合において、腹側胴周り域１１０はペットの腹に、背側胴周り域１３０はペットの背に、股下域１２０はペットの股下にそれぞれ当接される。

この背側胴周り域１３０、腹側胴周り域１１０、股下域１２０が、本発明に係る「背側胴周り域と、腹側胴周り域と、背側胴周り域と腹側胴周り域の間に位置する股下域」のそれぞれ一例である。

【００２０】 40

ペット用使い捨ておむつ１０は、図１に示される展開状態において、腹側胴周り域１１０と股下域１２０と背側胴周り域１３０が連続する方向であるおむつ長手方向Ｙと、おむつ長手方向Ｙと交差する方向であるおむつ長手交差方向Ｙとを有する。本明細書において「交差する」とは、特に説明を行わない限り「直交する」ことを示す。

このおむつ長手方向Ｙと、おむつ長手交差方向Ｙとが、本発明に係る「ペット用使い捨ておむつがペットに装着されていない状態において、背側胴周り域と股下域と腹側胴周り域が連続する方向であるおむつ長手方向と、おむつ長手方向と交差する方向であるおむつ長手交差方向」の一例である。

【００２１】

ペット用使い捨ておむつ１０は、ペットに装着される側である内側表面１００Ｚ１と、 50

この内側表面 1 0 0 Z 1 と反対側の表面である外側表面 1 0 0 Z 2 とを有する。

なお、本実施の形態において、内側表面 1 0 0 Z 1 をペット側表面、ペット装着面と記す場合がある。

この内側表面 1 0 0 Z 1 が、本発明に係る「ペット用使い捨ておむつがペットに装着された状態において、ペット側へ向けられる内側表面」の一例である。

この外側表面 1 0 0 Z 2 が、本発明に係る「内側表面と対向する表面である外側表面」の一例である。

【0 0 2 2】

ペット用使い捨ておむつ 1 0 は、おむつ長手方向 Y 上において、腹側胴周り域 1 1 0 に形成される端部 1 1 0 A と、背側胴周り域 1 3 0 に形成される端部 1 3 0 A を有する。

10

この端部 1 1 0 A と 1 3 0 A が、本発明に係る「おむつ長手方向上における両端部」の一例である。

【0 0 2 3】

ペット用使い捨ておむつ 1 0 は、おむつ長手交差方向 X 上において一対の端部 1 0 0 A を有する。端部 1 0 0 A は、腹側フラップ部 1 5 0 におけるおむつ長手交差方向上の端部 1 5 0 B および背側端部 1 5 0 C と、背側フラップ部 1 6 0 におけるおむつ長手交差方向上の端部 1 6 0 B と、腹側フラップ部 1 5 0 の背側端部 1 5 0 C と背側フラップ部 1 6 0 の長手交差方向上の端部 1 6 0 B との間に位置する脚周り端部 1 0 0 A とに亘り連続される。

この端部 1 0 0 A が本発明に係る「おむつ長手交差方向上における両端部」の一例である。

20

なお、背側フラップ部 1 6 0 におけるおむつ長手交差方向上の端部 1 6 0 B は、側端部とも称される。

【0 0 2 4】

ペット用使い捨ておむつ 1 0 は、おむつ長手方向 Y の所定領域に尻尾挿通開口 1 9 0 を有する。尻尾挿通開口 1 9 0 は、内側表面 1 0 0 Z 1 と外側表面 1 0 0 Z 2 に亘り貫通する弧状の開口用切込み 1 9 1 により形成される。

なお、この第 1 の実施形態においては弧状の開口用切込み 1 9 1 により尻尾挿通開口 1 9 0 を形成したが、環状の切込みにより円形の開口を設けることもできる。

この尻尾挿通開口 1 9 0 が、本発明における「おむつ長手方向の所定領域に設けられた尻尾挿通開口」の一例である。

30

【0 0 2 5】

ペット用使い捨ておむつ 1 0 は、おむつ長手方向 Y に、尻尾挿通開口 1 9 0 の一方側に形成され、股下域 1 2 0 と腹側胴周り域 1 1 0 の所定領域に配置される吸収性コア 2 0 0 を有する。吸収性コア 2 0 0 は、腹側端部 2 1 0 と、背側端部 2 2 0 と、一対のおむつ長手交差方向側端部 2 3 0 とを有する。

吸収性コア 2 0 0 は、粒子状や繊維状の高吸収性ポリマーとフラッフパルプとの混合物や、粒子状や繊維状の高吸収性ポリマーとフラッフパルプと熱可塑性剛性樹脂繊維との混合物により形成される。また、その型崩れや高吸収性ポリマーの脱落を防止するため、全体がティッシュペーパーや親水性繊維不織布等の透液性シートで被覆されることが好ましい。また、吸収性コア 2 0 0 を、所定の厚みとすべく製造工程により圧縮することが好ましい。なお、高吸収性ポリマーは、合成ポリマー系、デンプン系、セルロース系などのものを適宜使用することができる。

40

この吸収性コア 2 0 0 が、本発明に係る「おむつ長手方向において尻尾挿通開口の一方側に形成され、股下域と前記腹側胴周り域の所定領域に配置される吸収性コア」の一例である。

【0 0 2 6】

図 2 に示す通り、ペット用使い捨ておむつ 1 0 において、吸収性コア 2 0 0 が配置されていない領域は吸収性コア非配置領域 1 7 0 とされる。

この吸収性コア非配置領域 1 7 0 が、本発明に係る「吸収性コアが配置されていない領

50

域である吸収性コア非配置領域」の一例である。

吸収性コア非配置領域 170 において、吸収性コア 200 の腹側端部 210 と、背側端部 220 と、ペット用使い捨ておむつ 10 の背側端部 130A と隣り合うそれぞれの領域は、後に説明する起立部 700 を構成するための起立領域とされる。起立領域の内、吸収性コア 200 の腹側端部 210 と隣り合う領域は、腹側起立領域 171 とされる。また、吸収性コア 200 の背側端部 220 と隣り合う領域は、股下起立領域 173 とされる。また、ペット用使い捨ておむつ 10 の背側端部 130A と隣り合う領域は、背側起立領域 172 とされる。

【0027】

なお、ペット用使い捨ておむつ 10 の設計次第では、この吸収性コア非配置領域 170 の内、特に起立領域に吸収性コア 200 の一部の構成が配置される場合がある。具体的には、ティッシュペーパーや、パルプ繊維もしくは高吸水性ポリマーの一部が配置される場合がある。そのような場合であっても、起立領域がその柔軟性を維持しており起立部 700 を形成するのであれば、実質的には吸収性コア非配置領域 170 が形成されており、起立領域も同時に形成されているものとされる。

【0028】

ペット用使い捨ておむつ 10 は、腹側フラップ部 150 のおむつ長手交差方向上の両端部 150A に、止着部 300 を有する。

図 3 に示す通り、止着部 300 は止着部長手方向 300X と、止着部長手交差方向 300Y とを有する。止着部長手方向 300X においては、止着部 300 がペット用使い捨ておむつ 10 に固定されている領域である固定部 320 と、止着領域 900 に止着される自由部 310 とを有する。

【0029】

止着部 300 には、ポリオレフィン系の熱可塑性合成繊維から形成された繊維不織布またはポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂から形成されたプラスチックフィルムが使用される。自由部 310 におけるおむつ内側表面 100Z1 側には、多数のフック（図示せず）が取り付けられている。フックは、ポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂から形成されている。なお、このフックは止着領域 900 に止着するための構成であるが、止着領域 900 の構造によっては他の構成を選択することができる。例えば、フックではなく粘着剤を使用することができる。

この止着部 300 が、本発明に係る「腹側胴周り域に設けられるとともに所定の長さを有する止着部」の一例である。

このフックが、本発明に係る「止着部に設けられたフック部」の一例である。

【0030】

ペット用使い捨ておむつ 10 は、フラップ部 140A を有する。フラップ部 140A は、おむつ長手交差方向上の両端部 100A における腹側胴周り域 110 のおむつ長手交差方向に設けられた一对の腹側フラップ部 150 と、おむつ長手交差方向上の両端部 100A における背側胴周り域 130 のおむつ長手交差方向上に設けられた一对の背側フラップ部 160 とにより構成される。フラップ部 140A は、ペット用使い捨ておむつ 10 のおむつ長手交差方向上の端部 100A 同士を結んだおむつ長手交差方向 X 上における直線の内、最も短い箇所である端部 100A 上の点である最短幅点 100AP を通過するおむつ長手方向上の仮想線 100Y1 により規定される。すなわちこの仮想線 100Y1 はフラップ境界線とされ、一对のフラップ境界線 100Y1 よりも外側の領域がフラップ部（腹側フラップ部 150、背側フラップ部 160）とされる。一方、一对のフラップ境界線 100Y1 同士の内側の領域が本体部 140B とされる。なお、このフラップ境界線 100Y1 自体は、おむつ長手方向上の任意の直線である基準仮想直線とすることもできる。

この最短幅点 100AP が、本発明に係る「おむつ長手交差方向において、おむつ長手交差方向上の両端部を結んだ仮想直線の内、最も短い仮想直線となるおむつ長手交差方向上の両端部における点である一对のおむつ最短幅点」の一例である。

このフラップ境界線 100Y1 が、本発明に係る「一对のおむつ最短幅点を通過するお

10

20

30

40

50

むつ長手方向における直線である「一对の仮想境界線」の一例である。

この本体部 140B が、本発明に係る「一对の仮想境界線」の一例である。

この腹側フラップ部 150 が、本発明に係る「腹側胴周り域における一对の仮想境界線の外側領域に形成された腹側フラップ部」の一例である。

この背側フラップ部 160 が、本発明に係る「背側胴周り域における一对の仮想境界線の外側領域に形成された背側フラップ部」の一例である。

【0031】

次にフラップ部 140A の構成につき、図 4 に基づき説明する。なお図 4 は、腹側フラップ部 150 と背側フラップ部 160 とを比較するために、フラップ境界線 100Y1 を基準とし、腹側フラップ部 150 と背側フラップ部 160 を上下に並べたものである。

まず、フラップ部 140A のおむつ長手交差方向 X における長さを定義する。一对のフラップ部 140A におけるおむつ長手交差方向 X における直線の内、最も長い直線となる一对のフラップ部 140A におけるおむつ長手交差方向 X における点として最大幅点を規定する。この最大幅点は、腹側フラップ部 150 における最大幅点 150AP として図示され、背側フラップ部 160 における最大幅点 160AP として図示される。

次に、フラップ境界線 100Y1 からこの最大幅点までのおむつ長手交差方向 X までの最短距離を測定し、これをフラップ部 140A におけるおむつ長手交差方向 X の長さとする。このフラップ部 140A におけるおむつ長手交差方向 X の長さとして、腹側フラップ部 150 の長さが 150L として図示され、背側フラップ部 160 の長さが 160L として図示される。

本発明において、腹側フラップ部 150 の長さ 150L と、背側フラップ部 160 の長さ 160L とは、異なった長さとして示されている。

このような構成とすることにより、腹側フラップ部 150 と背側フラップ部 160 の内のどちらか一方のおむつ長手交差方向 X における長さを短くすることができる。その結果、短い方のフラップ部 140A の折れ曲りが生ずる可能性を減少することができる。

ここで、本実施の形態における「折れ曲り」とは、フラップ部 140A における内側表面 100Z1 同士が接触する状態、フラップ部 140A における外側表面 100Z2 同士が接触する場合、もしくは、ペット用使い捨ておむつ 10 がペット α に対してフィット性を損なうほどにフラップ部 140A に皺が入っている状態をしめす。

なお、本発明に係る第 1 の実施形態においては、背側フラップ部 160 の長さ 160L が、腹側フラップ部 150 の長さ 150L よりも短く構成されている。

【0032】

次に図 5 に基づき、背側フラップ部 160 の構成を説明する。

背側フラップ部 160 の側端部 160B は、おむつ長手交差方向 X におけるフラップ部境界線 100Y1 から側端部 160B までの距離が、測定位置毎に異なる形状とされている。

この結果、背側フラップ部の側端部 160B の形状は、前記おむつ長手方向 Y に関して暫時異なるように形成されている。

本実施の形態において、背側フラップ部 160 における側端部 160B の具体的な形状は、円弧状の曲線とされている。なお、本実施の形態において「円弧状」とは、必ずしも正円における円弧を示すものではない。例えば、楕円における円弧を含み、また、正円における円弧と楕円における円弧の組み合わせとすることもできる。すなわち、本実施の形態における「円弧状」とは、「直線状ではない」と換言することができる。

背側フラップ部 160 における側端部 160B の形状をこのように構成することにより、使用者が背側フラップ部 160 を把持した場合、その触感により側端部 160B のどの部分を把持しているかを確認することができる。

【0033】

背側フラップ部 160 における側端部 160B の中央領域は、フラップ部境界線 100

Y 1 と側端部 1 6 0 B との間の距離が最大となる極大領域 1 6 0 B 1 が形成されている。本実施の態様において「中央領域」とは、特に背側フラップ部 1 6 0 における背側端部 1 6 0 A が延出されて後述する識別領域 1 0 A が形成されている場合、この識別領域 1 0 A を含まない領域を示すものである。

この極大領域 1 6 0 B 1 は、具体的には、背側フラップ部 1 6 0 における側端部 1 6 0 B が、極大領域 1 6 0 B 1 を最大値とするような円弧状曲線により形成されることにより構成される。

極大領域 1 6 0 B 1 を形成したことにより、使用者が背側フラップ部 1 6 0 を把持した場合、その触感により側端部 1 6 0 B のどの部分を把持しているかをさらに容易に確認することができる。

10

【0034】

この極大領域 1 6 0 B 1 を通過するおむつ長手交差方向 X における仮想線 1 6 0 B 1 1 上に、後述する止着領域 9 0 0 が設けられる。

具体的には、極大領域 1 6 0 B 1 を通過するおむつ長手交差方向 X における仮想線 1 6 0 B 1 1 上に、後述する止着領域 9 0 0 における第 2 の止着領域 9 0 0 B が配置される。

このような極大領域 1 6 0 B 1 と止着領域 9 0 0 の関係により、使用者は腹側フラップ部 1 5 0 の止着部 3 0 0 と、背側フラップ部 1 6 0 の止着領域 9 0 0 との位置決めが容易となる。すなわち、使用者が背側フラップ部 1 6 0 を把持した場合、極大領域 1 6 0 B 1 を認識することにより、止着領域 9 0 0 の位置を同時に認識することができる。

【0035】

20

さらに、背側フラップ部 1 6 0 の側端部 1 6 0 B の形状と、止着領域 9 0 0 におけるおむつ長手交差方向 X 上の端部 9 0 0 B B の形状が異なっている。なお、止着領域 9 0 0 におけるおむつ長手交差方向 X 上の端部は、「側端部」とも称される。

具体的には、背側フラップ部 1 6 0 の側端部 1 6 0 B の形状が曲線状であるのに対し、第 2 の止着領域 9 0 0 B における側端部 9 0 0 B B の形状は、おむつ長手方向 Y と平行である直線状とされている。

このような背側フラップ部 1 6 0 の側端部 1 6 0 B と、止着領域 9 0 0 の側端部 9 0 0 B B との関係により、使用者は腹側フラップ部 1 5 0 の止着部 3 0 0 と、背側フラップ部 1 6 0 の止着領域 9 0 0 との位置決めが容易となる。すなわち、使用者が背側フラップ部 1 6 0 を把持した場合、極大領域 1 6 0 B 1 を認識することにより、止着領域 9 0 0 の位置を同時に認識することができる。さらに、背側フラップ部 1 6 0 の側端部 1 6 0 B の側端部と、止着領域 9 0 0 の側端部 9 0 0 B B の形状が異なることから、止着領域 9 0 0 の側端部 9 0 0 B B の位置そのものや、止着領域 9 0 0 におけるおむつ長手交差方向 X 上の位置を容易に認識することができる。

30

【0036】

フラップ部 1 4 0 A には、識別領域 1 0 A が形成される。この識別領域 1 0 A は、ペット用使い捨ておむつ 1 0 をペット α に装着した状態において、ペット用使い捨ておむつ 1 0 を外部から視認した場合、背側フラップ 1 6 0 の状態が異常であることを判別するために設けるものである。

この際、本実施の形態においては、識別領域 1 0 A がペット用使い捨ておむつ 1 0 の外部から視認できる場合は「背側フラップ部 1 6 0 の状態が正常である」とする。また、識別領域 1 0 A がペット用使い捨ておむつ 1 0 の外部から視認できない場合は「背側フラップ部 1 6 0 の状態が異常である」とする。なお、本実施の形態において「識別領域 1 0 A が視認できる」とは、必ずしも「識別領域 1 0 A の全体が視認される」ことのみを示すものではない。すなわち、「識別領域 1 0 A の一部を視認する」ことにより、背側フラップ部 1 6 0 の状態が正常もしくは異常であることが認識できれば、それで足りるものである。

40

なお、背側フラップ部 1 6 0 の状態が「正常」とは、ペット用使い捨ておむつ 1 0 をペット α に装着した状態において、背側フラップ部 1 6 0 が折れ曲っていない状態を示す。また、なお、背側フラップ部 1 6 0 の状態が「異常」とは、ペット用使い捨ておむつ 1 0

50

をペットαに装着した状態において、背側フラップ部160が折れ曲っている状態を示す。

【0037】

次に、識別領域10Aの具体的な構成につき説明する。

本実施の形態において、識別領域10Aは背側フラップ部160に設けられる。

識別領域10Aは、背側フラップ160のおむつ長手方向Y上の端部160Aと、この端部160Aに隣接する側端部160Bの領域を、おむつ長手交差方向Xに延出することにより形成されている。この、背側フラップ160における側端部160Bの所定領域が延出されることにより形成された識別領域10Aを、第1の延出識別領域10A1とする。

10

【0038】

この識別領域10Aは、ペット用使い捨ておむつ10をペットαに装着した場合において、腹側フラップ150部におけるおむつ長手方向Y上の端部150Aから突出されるべく構成される。

このように、腹側フラップ部150の端部150Aから、識別領域10Aが突出する構成に係る具体的な構造を図6に基づき説明する。

図6においては、腹側フラップ部150と、背側フラップ部160における識別領域10Aとの関係が判りやすいよう、腹側フラップ部150と背側フラップ部160とを並列して示すものである。

まず、背側フラップ160において、識別領域10Aにおけるおむつ長手方向Y上の端部を通過する、おむつ長手交差方向Xにおける仮想線を第1の仮想線10A11とする。

20

次に、背側フラップ160において、止着領域900における第2の止着領域900Bの背側方向端部900BCを通過する、おむつ長手交差方向Xにおける仮想線を第2の仮想線900BC1とする。

次に、第1の仮想線10A11と、第2の仮想線900BC1とを結ぶおむつ長手方向Yにおける仮想線を、第3の仮想線D160とする。

次に、腹側フラップ部150において、止着手段300の背側方向端部300Cを通過するおむつ長手交差方向Xにおける仮想線を、第4の仮想線300C1とする。

次に、腹側フラップ部150の腹側方向端部150Aを通過するおむつ長手交差方向Xにおける仮想線を、第5の仮想線150A1とする。

30

次に、第4の仮想線300C1と、第5の仮想線150A1とを結ぶおむつ長手方向Yにおける仮想線を、第6の仮想線D150とする。

そして、第3の仮想線D160の長さが、第6の仮想線D150の長さよりも長く形成されている。

このように第3の仮想線D160の長さを第6の仮想線D150の長さよりも長く形成した場合、識別領域10Aの確認が容易となる。

すなわち、ペット用使い捨ておむつ10をペットαに装着した場合、背側フラップ部160における止着領域900の第2の止着領域900Bのどの位置に対し、腹側フラップ部150における止着部300の固定部310を止着しても、識別領域10Aは必ず腹側フラップ部150の腹側方向端部150Aから突出することとなる。

40

【0039】

次に、止着領域900の説明を行う。まず、図1に基づき、止着領域900の基本構成につき説明する。

止着領域900は、ペット用使い捨ておむつ10における少なくとも背側胴周り域130に設けられ、止着部300の自由部310に配置されたフック部に着脱自在に係止される。

この止着領域900が、本発明に係る「背側胴周り域の外側表面」に設けられるとともに止着部のフック部を受ける止着領域」の一例である。

止着領域900は、ペット用使い捨ておむつ10の外側表面100Z2を形成する外層シート930として、止着部300のフック部に着脱資材に係止することができる構成の

50

不織布を使用している。この止着部 300 のフック部に着脱自在に係止することができる構成の不織布により、第 1 の止着領域 900 A が構成されている。

第 1 の止着領域 900 A は、吸収性コア非配置領域 170 に設けられる。すなわち、第 1 の止着領域 900 A はペット α の背側に配置される。一方、ペット α の種類によっては、背側の傾斜が大きいものである。よって、ペット α の背中にフィットさせるためには、止着部 300 を係止する領域である止着領域 900 をフレキシブルな構成とする必要がある。

この止着領域 900 と第 1 の止着領域 900 A の関係が、本発明に係る「止着領域が、少なくとも背側胴周り域の吸収性コア非配置領域におけるおむつ本体部の外側表面に配置された不織布による第 1 の止着領域にて形成」の一例である。

10

この外側表面 100 Z 2 を形成する外層シート 930 を、第 1 の止着領域とすることが、本発明に係る「第 1 の止着領域が、外側表面の全体に配置されている」の一例である。

なお、ペット用使い捨ておむつ 10 の背側胴周り域 130 における吸収性コア非配置領域 170 の、前記おむつ長手交差方向に、後述する背側胴周り用伸縮性弾性部材 520 が配置される。背側胴周り用伸縮性弾性部材 520 は、具体的にはペット用使い捨ておむつ 10 の背側端部 130 A 付近に、伸長状態にて配置される。

ペット用使い捨ておむつ 10 をペットに装着する場合、背側胴周り用伸縮性弾性部材 520 は収縮する。この結果、後述の第 1 の背側湾曲部 542 を形成する。よって、ペット用使い捨ておむつ 10 の背側胴周り域 130 を、よりペット α に装着しやすいこととなる。

20

この背側胴周り用伸縮性弾性部材 520 が、本発明に係る「背側胴周り域における吸収性コア非配置領域のおむつ長手交差方向に、伸長状態で配置される胴周り用伸縮性弾性部材」の一例である。

【0040】

なお、第 1 の止着領域 900 A と止着部 300 の係合力は 1. 1 ～ 4. 2 N の範囲であることが望ましい。

なお、前記第 1 の止着領域 900 A における外側表面 100 Z 2 には、第 1 の止着領域 900 A よりも止着部 300 のフック部との係合力が高く形成された第 2 の止着領域 900 B が配置されている。

この第 1 の止着領域 900 A と第 2 の止着領域 900 B の関係が、本発明に係る「第 1 の止着領域における外側表面方向には、第 1 の止着領域よりも止着部のフック部との係合力が高く形成された第 2 の止着領域が配置されている」の一例である。

30

第 2 の止着領域 900 B は、具体的には、ポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂繊維から形成された繊維不織布またはポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂から形成されたプラスチックフィルムに、ポリオレフィン系の熱可塑性合成樹脂からなる多数のループ（図示せず）を取り付けたターゲットテープにより構成される。

このように構成することにより、ペット用使い捨ておむつ 10 のペット α への装着がより強固となる。

すなわち、使用者がペット用使い捨ておむつ 10 をペット α に装着する場合、止着部 300 のフック部の一部のみを第 2 の止着領域 900 B（ターゲットテープ）に止着する場合がある。このような場合であっても、第 2 の止着領域 900 B に止着されないフック部は、第 1 の止着領域 900 A に止着する。よって、どのような状況においても止着部 300 のフックは、第 1 の止着領域 900 A もしくは第 2 の止着領域 900 B のいずれかに止着するため、ペット用使い捨ておむつ 10 のペット α への装着を確実なものとすることができる。

40

【0041】

次に、第 1 の止着領域 900 A の構成を、図 7 および図 8 に基づき説明する。

図 7 は、第 1 の止着領域 900 A を拡大した説明図である。図 8 は、第 1 の止着領域 900 A に形成された囲繞部 930 D を拡大した説明図である。

第 1 の止着領域 900 A を構成する外層シート 930 には、熱可塑性繊維が使用されて

50

いる。

この熱可塑性繊維が、本発明に係る「熱可塑性繊維」の一例である。

外層シート930は、第1の方向に延びるとともに、熱可塑性繊維が溶融されて形成された第1の溶着部930Aを有する。

この第1の溶着部930Aが、本発明に係る「第1の方向に延びるとともに、熱可塑性繊維が溶融されて形成された第1の溶着部」の一例である。

この第1の溶着部930Aは、複数形成されることにより第1の溶着部群930AAを構成する。

この第1の溶着部群が、本発明に係る「複数の前記第1の溶着部により形成される第1の溶着部群」の一例である。

10

さらに第1の溶着部930Aは、隣り合う一对の第1の溶着部930Aにより、第1の隣接溶着部群930ABを構成する。

この第1の隣接溶着部群930ABが、本発明に係る「第1の溶着線部の内、隣り合う第1の溶着線により形成される第1の隣接溶着部群」の一例である。

外層シート930は、第1の方向と交差する方向である第2の方向に延びるとともに、熱可塑性繊維が溶融されて形成された第2の溶着部930Bを有する。なお、この「交差」とは、必ずしも直交を意味しないものである。

この第2の溶着部930Bが、本発明に係る「第1の方向と交差する方向である第2の方向に延びるとともに、熱可塑性繊維が溶融されて形成された第2の溶着部」の一例である。

20

この第2の溶着部930Bは、複数形成されることにより第2の溶着部群930BAを構成する。

この第2の溶着部群930BAが、本発明に係る「複数の第2の溶着部により形成される第2の溶着部群」の一例である。

さらに第2の溶着部930Bは、隣り合う一对の第2の溶着部930Bにより、第2の隣接溶着部群930BBを構成する。

この第2の隣接溶着部群930BBが、本発明に係る「第2の溶着部群の内、隣り合う第2の溶着部により形成される第2の隣接溶着部群」の一例である。

第1の隣接溶着部群930ABと、第2の隣接溶着部群930BBが交差することにより囲まれた領域に、平行四辺形の囲繞部930Dが形成される。この場合、「平行四辺形」とは、正方形や長方形を含むものである。

30

この囲繞部930Dが、本発明に係る「互いに交差する第1の隣接溶着部群と、第2の隣接溶着部群とにより囲まれる平行四辺形の領域である囲繞部」の一例である。

外層シート930は、第1の方向および第2の方向と交差する方向である第3の方向に延びるとともに、熱可塑性繊維が溶融されて形成され、囲繞部930D内に配置される第3の溶着部930Cを有する。なお、この「交差」とは、必ずしも直交を意味しないものである。

この第3の溶着部930Cが、本発明に係る「第1の方向および第2の方向と交差する方向である第3の方向に延びるとともに、熱可塑性繊維が溶融されて形成され、囲繞部に配置される第3の溶着部」の一例である。

40

この第3の溶着部930Cは、複数形成されることにより第3の溶着部群930CAを構成する。

この第3の溶着部群CAが、本発明に係る「複数の前記第3の溶着部により形成される第3の溶着部群」の一例である。

さらに第3の溶着部930Cは、隣り合う一对の第3の溶着部930Cにより、第3の隣接溶着部群930CBを構成する。

この第3の隣接溶着部群930CCが、本発明に係る「第3の溶着部群の内、隣り合う第3の溶着部により形成される第3の隣接溶着部群」の一例である。

第1の溶着部930Aと第3の溶着部930Cとの間には、溶着されていない熱可塑性繊維により、第1のループ部930L1が形成される。すなわち、第1のループ部930

50

L 1 は、その両端部が第 1 の溶着部 9 3 0 A と第 3 の溶着部 9 3 0 C とに固定されているとともに、この両端部間の繊維にてループが形成されてなるものである。この第 1 のループ部 9 3 0 L 1 は、係止部 3 0 0 のフック部に着脱自在に係止される。

この第 1 のループ部 9 3 0 L 1 が、本発明に係る「第 1 の溶着部と第 3 の溶着部とに亘る熱可塑性繊維により形成され、止着部のフック部に着脱自在に係止される第 1 のループ部」の一例である。

第 2 の溶着部 9 3 0 B と第 3 の溶着部 9 3 0 C との間には、溶着されていない熱可塑性繊維により、第 2 のループ部 9 3 0 L 2 が形成される。すなわち、第 2 のループ部 9 3 0 L 2 は、その両端部が第 2 の溶着部 9 3 0 B と第 3 の溶着部 9 3 0 C とに固定されているとともに、この両端部間の繊維にてループが形成されてなるものである。この第 2 のループ部 9 3 0 L 2 は、係止部 3 0 0 のフック部に着脱自在に係止される。

10

この第 2 のループ部 9 3 0 L 2 が、本発明に係る「第 2 の溶着部と第 3 の溶着部とに亘る熱可塑性繊維により形成され、止着部のフック部に着脱自在に係止される第 2 のループ部」の一例である。

【0042】

なお、第 3 の方向は、おむつ長手方向 Y と概ね平行であることが好ましい。これが、本発明に係る「第 3 の方向は、おむつ長手方向と概ね平行である」の一例である。このように構成することにより、第 3 の溶着部 9 3 0 C が、おむつ長手方向 Y と概ね平行に構成される。囲繞部 9 3 0 D は、第 1 の溶着部 9 3 0 A と第 2 の溶着部 9 3 0 B とにより囲まれているため、剛性が高くなる。一方、このように剛性の高い囲繞部 9 3 0 D に対し、おむつ長手方向 Y と概ね平行な方向に第 3 の溶着部 9 3 0 C が配置される。従って、ペット用使い捨ておむつ 1 0 をペットに装着した際に、第 3 の溶着部 9 3 0 C がヒンジの役割を果たす。よって、背側胴周り域 1 3 0 を、ペット α の背に沿わせやすくなる。

20

なおここで、「概ね平行」とは、おむつ長手方向 Y と完全に平行でなくともよい。背側胴周り域 1 3 0 をペット α の背に沿わせやすい形状とするためのヒンジとして、第 3 の溶着部 9 3 0 C が機能するに足りる方向であれば足りるものである。

囲繞部 9 3 0 D は平行四辺形であるため、第 1 の対角線 9 3 0 D 1 と第 2 の対角線 9 3 0 D 2 とを有する。また、囲繞部 9 3 0 D は、第 3 の溶着部 9 3 0 C により第 1 の囲繞部 9 3 0 D A と、第 2 の囲繞部 9 3 0 D B とに分けられる。

第 3 の溶着部 9 3 0 C が延びる方向である第 3 の方向は、囲繞部 9 3 0 D を形成する平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線と平行であることが好ましい。

30

これが、本発明に係る「第 3 の方向は、囲繞部を形成する平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線と平行である」の一例である。

この場合、さらに、第 3 の溶着部 9 3 0 C が、囲繞部 9 3 0 D を形成する平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線上に形成されていることが好ましい。本実施形態においては、第 3 の溶着部 9 3 0 C は、囲繞部 9 3 0 D の第 1 の対角線 9 3 0 D 1 上に配置されている。このように第 3 の溶着部 9 3 0 C を囲繞部 9 3 0 D の対角線上に配置した場合は、第 1 の囲繞部 9 3 0 D A と第 2 の囲繞部 9 3 0 D B が同一の大きさとなる。よって、第 1 の囲繞部 9 3 0 D A と第 2 の囲繞部 9 3 0 D B とにそれぞれ形成される第 1 のループ部 9 3 0 L 1 および第 2 のループ部 9 3 0 L 2 の大きさを、第 1 の囲繞部 9 3 0 D A と第 2 の囲繞部 9 3 0 D B とで均一化することができる。

40

この第 3 の溶着部 9 3 0 C を囲繞部 9 3 0 D の第 1 の対角線 9 3 0 D 1 もしくは第 2 の対角線 9 3 0 D 2 上に配置する構成が、本発明に係る「第 3 の溶着部は、囲繞部を形成する平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線上に形成されている」の一例である。

なお、囲繞部 9 3 0 D は、第 1 の辺 9 3 0 D 3 と、第 2 の辺 9 3 0 D 4 とを有する。一般的に使用されている止着部 3 0 0 のフック部に対し良好な止着状態を得るため、囲繞部 9 3 0 D の第 1 の辺 9 3 0 D 3 の長さ D 9 3 0 D 3 と、第 2 の辺 9 3 0 D 4 の長さ D 9 3 0 D 4 は、それぞれ 2 ～ 1 0 mm の範囲にあることが好ましい。

この好ましい囲繞部 9 3 0 D の大きさが、本発明に係る「囲繞部は、一片の長さが 2 ～ 1 0 mm の範囲にある」の一例である。

50

【0043】

本実施の形態において、第1の溶着部930Aは連続した線状にて形成されており、第1の溶着連続線930A1とされている。

本実施の形態において、第2の溶着部930Bは連続した線状にて形成されており、第2の溶着連続線930B1とされている。

本実施の形態において、第3の溶着部930Cは連続した線状にて形成されており、第3の溶着連続線930C1とされている。

【0044】

なお、第1の溶着部930Aと、第2の溶着部930Bの幅は、0.2～2mmの範囲が好ましい。第3の溶着部930Cの幅は、0.2～5mmの範囲が好ましい。第3の隣接溶着部を構成する一对の第3の溶着部930C同士の間隔は、2～10mmの範囲にあることが好ましい。第1の溶着部930Aの幅と、第2の溶着部930Bの幅と、第3の隣接溶着部を構成する一对の第3の溶着部930C同士の間隔がこのような数値であると、ペット用使い捨ておむつ10の外側表面100Z2を構成する外層シート930としての柔軟性や風合いを損なわない。

10

【0045】

次に、第1の止着領域900Aの作用につき説明する。

使用者がペット用使い捨ておむつ10をペットαに装着するために、止着部300のフック部を、第1の止着領域900Aに取り付ける。この場合、止着部300のフック部が、第1のループ部930L1と第2のループ部930L2の少なくとも一方に係合する。

20

止着部300に剪断力が生じた場合、止着部300のフック部に係合した第1のループ部930L1、第2のループ部930L2がフック部の移動に伴い移動する。一方、第1のループ部930L1の両端部は第1の溶着部930Aと第3の溶着部930Bとにより固定されており、第2のループ部930L2の両端部は第2の溶着部930Bと第3の溶着部930Cとにより固定されている。よって、第1のループ部930L1と第2のループ部930L2との移動は拘束されているため、フック部との係止状態が解除されにくいものである。

【0046】

第1の止着領域900Aを構成する外層シート930は、1-3d texの織度を有する熱可塑性繊維のフィラメントまたはステープルの集合体であり、より好ましくはフィラメントの集合体である。ステープルは、その長さが後述する囲繞部930Dにおける最大辺の長さの少なくとも2倍であるものが好ましい。具体的には、50mm以上のものが好ましい。

30

外層シート930は、15～40g/m²の単位面積当たり質量を有する。

外層シート930は、このようなフィラメントもしくはステープルの集合体に、後述する第1の溶着部930A、第2の溶着部930B、第3の溶着部930Cを形成することにより不織布としての形態を有することができる。一方、このような不織布の形態に代えて、サーマルボンド不織布等の不織布に第1の溶着部930A、第2の溶着部930B、第3の溶着部930Cを形成することもできる。

【0047】

40

第1の止着領域900Aである外層シート930の形成にあっては、まず、外層シート930となるべき熱可塑性繊維の集合体によるウェブを得る。

そのウェブを一方向に連続的に供給しながら、加熱されたエンボス加工ロールによって局所的な圧力を加える。加熱されたエンボス加工ロールにより熱可塑性繊維が溶着され、第1の溶着部930Aと、第2の溶着部930Bと、第3の溶着部930Cが形成される。この第1の溶着部930Aと、第2の溶着部930Bと、第3の溶着部930Cとによりウェブが固定され、外層シート930が得られる。

【0048】

エンボス加工ロールは、熱可塑性繊維が溶融する温度にまで加熱された状態で使用される。そのようにして得られる第1の溶着部930Aと、第2の溶着部930Bと、第3の

50

溶着部 930C とは、熱可塑性繊維同士が互いに分離することのできない程度にまで溶着されている。

このように、第1の溶着部 930A と、第2の溶着部 930B と、第3の溶着部 930C とはエンボス加工ロールにより形成される。よって、第1の溶着部 930A と、第2の溶着部 930B と、第3の溶着部 930C とは、これらが形成されていない外層シート 930 の箇所と比して窪んだ状態となる。

従って、外層シート 930 を使用しペット用使い捨ておむつ 10 を形成した場合、第1の溶着部 930A と、第2の溶着部 930B と、第3の溶着部 930C とは、止着領域 900 の外側表面 100Z2 から窪んだ状態となる。

これが、本発明に係る「第1の溶着部と、第2の溶着部と、第3の溶着部とが止着領域の外側表面から窪んだ状態にある」の一例である。

10

すなわち、第1の溶着部 930A と、第2の溶着部 930B と、第3の溶着部 930C が形成されていない領域である囲繞部 930D は、止着領域 900 における第1の止着部 900A の外側表面 100Z2 において、突出した部分を形成すると言える。

よって、止着部 300 のフック部を第1の止着部 900A に止着する場合、使用者は容易に作業を行えるものである。

なお、第1の止着領域 900A をエアスルー不織布により構成する場合には、目付が 30 g/m^2 程度が望ましい。

【0049】

次に、腹側フラップ部 150 の構成につき説明する。

20

図3に示す通り、腹側フラップ部 150 においては、そのおむつ長手交差方向上の端部 150B から止着部 300 の自由端 310 が突出される。この端部 150B と止着部 300 の境界において、止着部 300 における止着部長手交差方向 300Y を2分した点が止着部中間点 300P1 とされる。

また、腹側フラップ部 150 の背側端部 150C は弧状であり、腹側フラップ部 150 のおむつ長手交差方向上の端部 150B から脚周り端部 120A にわたり連続する。

【0050】

次に腹側フラップ部 150 として好適な構造を、図9～図10に基づき説明する。

図9において、おむつ長手方向中心線 100Y2 は、ペット用使い捨ておむつ 10 におけるおむつ長手交差方向 X の中心を通過する。つまり、おむつ長手方向中心線 100Y2 は、ペット用使い捨ておむつ 10 の腹側端部 110A を2分した位置である腹側端部中心点 110AP と、背側端部 130A を2分した位置である背側中心点 130AP とを結ぶ線上に位置する。

30

さらに、おむつ長手方向中心線 100Y2 上における、腹側端部 110A と背側端部 130A とを結んだ長さがおむつ長手方向長さ D1 とされる。

さらに、おむつ長手方向長さ D1 を2分した位置が、おむつ中心点 100P とされる。

【0051】

本発明の発明者は、腹側フラップ 150 を構成するにあたり、止着部 300 の止着部中心点 300P1 とおむつ長手方向中心線 100Y2 とを結んだ直線と、腹側フラップ部 150 の背側端部 150C の形状との関係に着目し、鋭意検討を行った。

40

特に、止着部 300 の止着部中心点 300P1 からおむつ長手方向中心線 100Y2 に伸ばした直線の内、腹側フラップ部 150 の背側端部 150C を経由した最短の直線距離 300L と、おむつ長手方向中心線 100Y2 とが交わる点である最短直線点 300P2 との関係に着目した。

その結果、最短直線点 300P2 が、おむつ中心点 100P よりもペット用使い捨ておむつ 10 の腹側端部 110A 方向にある場合、腹側フラップ部 150 として好適な構成となることを見出した。

【0052】

すなわち、最短直線点 300P2 の位置は、腹側フラップ部 150 の背側端部 150C の形状と大きな関係がある。背側端部 150C は、前述の如く弧状とされ、フラップ部 1

50

50の長手交差方向端部150Bと、ペット用使い捨ておむつ10の脚周り端部120Aに亘り形成される。

この点、最短直線点300Pがおむつ中心点よりも背側胴周り域130側に位置する場合を仮定する。この場合、腹側フラップ部150の背側端部150Cと脚周り端部120Aとの接続位置は、本発明に係る構成よりも背側胴周り域130側となる。この結果、腹側フラップ部150の面積は大きくなる。よって、ペット用使い捨ておむつ10をペットαに着用した場合、腹側フラップ部150がペットの脚α1に接触する長さが長くなる。

一方、本発明に係る最短直線点300P2の位置であると、図10に示す通り、腹側フラップ部150の面積を小さくすることができ、腹側フラップ部150の背側端部150Cとペットの脚α1とが接触する長さを減ずることができる。

10

【0053】

ペット用使い捨ておむつ10は、様々な大きさのペットに対応し、様々な大きさのものが提供されている。ここで、ペットを犬または猫と限定する。この場合、最短直線点300P2と、ペット用使い捨ておむつ10の腹側端部中心点110APとを結んだ距離である測定長さD2が170mm～250mmとすると、いずれの大きさのペット用使い捨ておむつ10であっても、好適な腹側フラップ部150とすることができる。

【0054】

さらに、測定長さD2と、ペット用使い捨ておむつ10のおむつ長手方向長さD1との関係についても検討を行った。この結果、おむつ長手方向長さD1に対する測定長さD2の割合が、45.5%～50.0%であると、いずれの大きさのペット用使い捨ておむつ10であっても、好適な腹側フラップ部150とすることができる。

20

【0055】

ペット用使い捨ておむつ10において、おむつ長手交差方向上の端部100Aと吸収性コア200との間における吸収性コア非配置領域170には、脚周りに用伸縮性弾性部材400が配置される。

この脚周りに用伸縮性弾性部材400は伸長状態にて配置される。一方、ペット用使い捨ておむつ10を使用する場合、収縮して後述する脚周りギャザー410を形成する。

この脚周りに用伸縮性弾性部材400は、ペット用使い捨ておむつ10の腹側端部110Aから背側端部130Aに亘り、おむつ長手方向Yに沿って配置される。

【0056】

30

ここで、ペット用使い捨ておむつ10の「腹側端部110Aから背側端部130Aに亘り」の意味は、脚周りに用伸縮性弾性部材400が腹側端部110Aの末端から背側端部130Aの末端まで連続的に存在することのみを指すものではない。すなわち、脚周りに用伸縮性弾性部材400が、腹側端部110Aもしくは背側端部130Aの末端から距離を空けて存在していたとしても、その収縮力が腹側端部110Aもしくは背側端部130Aに影響を及ぼし起立部700を形成すればよい。

脚周りに用弾性部材400は、糸状の合成ゴムや天然ゴムにより構成される。

【0057】

ペット用使い捨ておむつ10は、胴周りに用伸縮性弾性部材500を有する。この腰周りに用伸縮性弾性部材500は、おむつ長手方向上の端部110Aと吸収性コア200の腹側端部210との間における吸収性コア非配置領域170に配置された腹側胴周りに用伸縮性弾性部材510と、おむつ長手方向上の端部130Aと吸収性コア200の背側端部220との間における吸収性コア非配置領域170に配置された背側胴周りに用伸縮性弾性部材520とにより構成される。

40

胴周りに用伸縮性弾性部材500は伸長状態にて配置される。一方、ペット用使い捨ておむつ10を使用する場合、収縮して胴周りギャザー530を形成する。

【0058】

胴周りに用伸縮性弾性部材500と脚周りに用伸縮性弾性部材400とは、重ねられて配置される。ここで、本実施の形態における「重ねる」の意味は、胴周りに用伸縮性弾性部材500と脚周りに用伸縮性弾性部材400が直接接していることのみを指すものではない。す

50

なわち、胴周用伸縮性弾性部材５００と脚周用伸縮性弾性部材４００とが直接接していない場合であっても、それぞれの収縮力が互いに影響を及ぼし、収縮力交差領域１８０を形成すればよい。

胴周用弾性部材５００は、ウレタン製の発泡シート材により構成される。

【００５９】

ペット用使い捨ておむつ１０は、防漏シート８００を有する。

防漏シート８００には、防漏シート用伸縮性弾性部材６００が伸長状態にて配置されている。

防漏シート８００は、ペット用使い捨ておむつ１０の長手交差方向上の端部１００Ａからペット用使い捨ておむつ１０の本体部１４０Ｂに亘る所定の領域に配置される。

10

防漏シート用伸縮性弾性部材６００は、防漏シート８００の内側端部の折り返し部８１０により生ずる空間内に配置され、おむつ長手方向Ｙに沿って延在される。

【００６０】

図１１に示す通り、防漏シート８００は、接着剤（図示しない）によりペット用使い捨ておむつ１０の他の構成部品（液透過性シート９１０、液抵抗性シート９２０、外層シート９３０）と固定される固定部８３０を形成する。図１１において、斜線で示した領域が固定部８３０である。

一方、吸収性コア２００のおむつ長手交差方向Ｘ側の端部２３０と重なるおむつ長手方向Ｙ上の領域には固定部８３０が形成されていない。この固定部８３０が形成されていない領域は、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮により起立され、後述する防漏壁８２０が形成される。また、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮により、防漏シート６００には防漏ギャザー８４０が形成される。

20

【００６１】

なお防漏シート用伸縮性弾性部材６００は、この固定部８３０が存在しない領域（防漏壁８２０が形成される領域）におけるおむつ長手方向Ｙのすべての長さに存在する必要はない。例えば、防漏壁８２０が形成される領域におけるおむつ長手方向Ｙの一部の領域にのみ、防漏シート用伸縮性弾性部材６００を配置すれば足りる。すなわち、防漏壁８２０が形成される領域のおむつ長手方向Ｙ上の固定部８３０において、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮力が影響すれば足りるものである。ここで、防漏壁８２０が形成される領域のおむつ長手方向Ｙ上の固定部８３０を収縮力固定部６１０とする。

30

【００６２】

収縮力固定部６１０は、腹側収縮力固定部６２０と、背側収縮力固定部６３０とを有する。

この内、背側収縮力固定部６３０は、吸収性コア２００の背側端部２２０と尻尾挿通開口１９０との間に設けられる。すなわち、この構成によって、防漏シート用伸縮性弾性部材６００の収縮により吸収性コア２００の背側端部２２０と尻尾挿通開口１９０間の吸収性コア非配置領域１７０が起立され、起立部７００が形成される。

また、腹側収縮力固定部６２０は、吸収性コア２００の腹側端部２１０とペット用使い捨ておむつ１０における腹側端部１１０Ａとの間に設けられる。すなわち、この構成によって、後述する通り、防漏シート用伸縮性弾性部材の収縮により吸収性コア２００の腹側端部２１０とペット用使い捨ておむつ１０の腹側端部１１０Ａとの間の吸収性コア非配置領域１７０が起立され、起立部７００が形成される。

40

【００６３】

ペット用使い捨ておむつ１０は、液透過性シート９１０と、液吸収性コア２００と、液抵抗性シート９２０と、外層シート９３０と、防漏シート８００とにより構成される。

図１２～図１４に示す通り、液透過性シート９１０は、ペット用使い捨ておむつ１０の内側表面１００Ｚ１側に配置される。また、吸収性コア２００は、液透過性シート９１０と液抵抗性シート９２０との間に配置される。液抵抗性シート９２０の外側表面１００Ｚ２側には外層シート９３０が配置される。防漏シート８００は、おむつ長手交差方向Ｘにおいて液透過性シート９１０と、液抵抗性シート９２０と、外層シート９３０とに亘り配

50

置される。この結果、腹側フラップ部 150 および背側フラップ部 160 は、防漏シート 800 と外層シート 930 とにより構成される。

脚周用伸縮性弾性部材 400 は、防漏シート 800 と液抵抗性シート 920 との間に配置される。

防漏シート用伸縮性弾性部材 600 は、防漏シート 800 における端部に形成された折り返し部 810 内の空間に配置される。

【0064】

図 12 に示す通り、止着部 300 は、防漏シート 800 と外層シート 930 との間に配置される。

図 12 および図 13 に示す通り、固定部 830 が形成されていない防漏シート 800 は、防漏シート用伸縮性弾性部材 600 の伸縮により起立され、防漏壁 820 を形成する。この際、防漏シート 800 には多数の皺である防漏ギャザー 840 が形成される。

図 14 に示す通り、止着領域 900 における第 2 の止着領域 900B は、外層シート 930 の外側表面 100Z2 方向に設けられる。

図示しないが、胴周用伸縮性弾性部材 500 は、液透過性シート 910 と液抵抗性シート 920 との間に配置される。

【0065】

液透過性シート 910、液抵抗性シート 920、防漏シート 800 は、不織布にて形成される。この不織布としては、スパンレース、ニードルパンチ、メルトブローン、サーマルボンド、スパンボンド、ケミカルボンドの各製法により製造されたものを選択することができる。

図示しないが、液透過性シート 910、液抵抗性シート 920、外層シート 930、防漏シート 800 同士の固定や、脚周用伸縮性弾性部材 400、防漏シート用弾性伸縮性弾性部材 600、胴周用伸縮性弾性部材 500 の固定にあっては、接着剤が使用される。接着剤は、ホットメルト型接着剤を使用することが好ましい。その他の接着剤として、アクリル系接着剤や、ゴム系接着剤を使用することもできる。

接着剤は、スパイラル状、波状、ドット状、縞状のうち、いずれかの態様で塗布されることが好ましい。

【0066】

次に、脚周用伸縮性弾性部材 400 と、胴周用伸縮性弾性部材 500 とにおける収縮力の関係を、図 15～図 16 に基づき説明する。なお、図 15～図 16 において、説明の便宜上、腹側フラップ部 150 および背側フラップ部 160 を省略し、本体部 140B のみを図示する。

図 15 に示す通り、脚周用伸縮性弾性部材 400 は、そのおむつ長手方向 Y 上の端部方向から内側方向へ向かい収縮する。すなわち、脚周用伸縮性弾性部材 400 の収縮力 F1 はおむつ長手方向 Y に沿って内側方向へ向かい働く。

胴周用伸縮性弾性部材 500 は、そのおむつ長手交差方向 X 上の端部方向から内側方向へ向かい収縮する。すなわち、胴周用伸縮性弾性部材 500 の収縮力 F2 は、おむつ長手交差方向 X に沿って内側方向へ向かい働く。

収縮力交差領域 180 は、脚周用伸縮性弾性部材 400 の収縮力 F1 と、胴周用伸縮性弾性部材 500 の収縮力 F2 が交差する領域である。よって、収縮力交差領域 180 の収縮力 F3 は、おむつ長手方向 Y とおむつ長手交差方向 X の双方に交差する方向に沿って、内側方向へ向かい働く。

収縮力交差領域 180 は、ペット用使い捨ておむつ 10 の腹側端部 110A 方向に形成された第 1 の収縮力交差領域 181 と、背側端部 130A 方向に形成された第 2 の収縮力交差領域 182 とからなる。

【0067】

この結果、図 16 に示す通り、ペット用使い捨ておむつ 10 の腹側端部 110A および背側端部 130A には、胴周用伸縮性弾性部材 500 の収縮力 F2 により、ペット用使い捨ておむつ 10 の内側表面 A1 から外側表面 Z2 方向に向かい突出する第 1 の湾曲部 5

10

20

30

40

50

40が形成される。

第1の湾曲部540は、ペット用使い捨ておむつ10の腹側端部110Aに形成された第1の腹側湾曲部541と、背側端部130Aにされた第1の背側湾曲部542とを有する。

【0068】

また、収縮力交差領域180には、収縮力交差領域180にかかる収縮力F3により、ペット用使い捨ておむつ10の内側表面100Z1へ向かい湾曲した第2の湾曲部183が形成される。

第2の湾曲部183は、第1の収縮力交差領域181に形成された第2の腹側湾曲部184と、第2の収縮力交差領域182に形成された第2の背側湾曲部185とを有する。

10

【0069】

次に図17に基づき、脚周り用伸縮性弾性部材400と、防漏シート用伸縮性弾性部材600が収縮した状態につき説明する。図17は、図1におけるD-D線断面図であるが、説明の便宜上、液透過性シート910、液抵抗性シート920、外層シート930の一部および吸収性コア200、止着領域900の全部の構成を省略する。

図17において、脚周り用伸縮性弾性部材400と、防漏シート用伸縮性弾性部材600とは収縮した状態である。この結果、脚周り用伸縮性弾性部材400と、防漏シート用伸縮性弾性部材600の収縮力に影響され起立部700が形成される。すなわち、吸収性コア非配置領域170における腹側起立領域171、背側起立領域172、股下起立領域173、がそれぞれ起立され、起立部700が形成される。

20

起立部700は、腹側起立部710と、背側起立部720と、股下起立部730とからなる。

【0070】

腹側起立部710は、脚周り用伸縮性弾性部材400の収縮により腹側起立領域171が起立され、形成される。

なお、防漏シート用伸縮性弾性部材600の端部よりも脚周り用伸縮性弾性部材400の端部の方が、ペット用使い捨ておむつ10の腹側端部110Aにより近い位置に配置される。よって、腹側起立部710は、脚周り用伸縮性弾性部材400の収縮力の影響をより強く受ける。一方、腹側起立部710は、脚周り用伸縮性弾性部材400よりも弱いものの、防漏シート用伸縮性弾性部材600の収縮力の影響を受ける。すなわち、収縮力固定部610の腹側収縮力固定部620が防漏シート用弾性部材600の収縮力により移動されることにより、腹側起立領域171が起立される。よって、防漏シート用伸縮性弾性部材600も腹側起立部710を形成する。

30

なお、本発明において起立部700を形成する「起立する」とは、単一種類の伸縮性弾性部材による収縮力、もしくは複数の伸縮性弾性部材のそれぞれの収縮力が合わせられた収縮力によって、吸収性コア非配置領域170が変形されることを示すものである。

【0071】

背側起立部720は、脚周り用伸縮性弾性部材400の収縮により、背側起立領域172が起立され形成される。

【0072】

40

また、脚周り用伸縮性弾性部材400は、胴周り用伸縮性弾性部材500に重ねられる。すなわち、脚周り用伸縮性弾性部材400の両端部は、それぞれ腹側胴周り用伸縮性弾性部材510と背側胴周り用伸縮性弾性部材520とに重ねられる。

胴周り伸縮性弾性部材500は、おむつ長手交差方向上に所定の長さで配置されている。そのため、腹側起立部710は腹側胴周り用伸縮性弾性部材510を、背側起立部720は背側胴周り用伸縮性弾性部材520をそれぞれ起立させる。よって、腹側起立領域171と背側起立領域172とは、それぞれ安定した起立状態とされる。すなわち、この腹側胴周り用伸縮性弾性部材510と、背側胴周り用伸縮性弾性部材520は、起立部700の起立状態を確実なものとするための起立シート740とされる。

【0073】

50

股下起立部 730 は、防漏シート用伸縮性弾性部材 600 の収縮により収縮力固定部 610 の背側収縮力固定部 630 が移動されることに伴い、股下起立領域 173 が起立されることにより形成される。

なお、上述の如く、防漏シート用伸縮性弾性部材 600 の収縮により、防漏壁 820 が形成される。この防漏壁 820 と、腹側起立部 710 と、股下起立部 730 と、吸収性コア（図 17 では図示せず）に囲まれた空間が、排泄物収容空間 850 とされる。

【0074】

ペット用使い捨ておむつ 10 の腹側端部 110A から尻尾挿通口 190 に亘る領域には、脚周り用伸縮性弾性部材 400 と防漏シート用伸縮性弾性部材 600 の収縮力 F1 により、ペット用使い捨ておむつ 10 の内側表面 100Z1 から外側表面 100Z2 方向に向かい突出する第 3 の湾曲部 186 が形成される。

10

ペット用使い捨ておむつ 10 の尻尾挿通口 190 から背側端部 130A に亘る領域には、主に脚周り用伸縮性弾性部材 400 の収縮力 F1 により、ペット用使い捨ておむつ 10 の内側表面 100Z1 から外側表面 100Z2 方向に向かい突出する第 4 の湾曲部 187 が形成される。

【0075】

次に、図 18～図 20 に基づき、ペット用使い捨ておむつ 10 の装着について説明する。使用者が、ペット用使い捨ておむつ 10 をパッケージから取り出す。多くの場合、パッケージ内においてはペット用使い捨ておむつ 10 の腹側フラップ部 150 と背側フラップ部 160 が内側方向に折り畳まれている。ペット用使い捨ておむつ 10 自体も 2 つ折り、3 つ折り等にて折り畳まれている。

20

使用者は使用に際し、この折り畳まれている構成を解放する。すると、脚周り用伸縮性弾性部材 400 と、胴周り用弾性伸縮性弾性部材 500 と、防漏シート伸縮性弾性部材 600 とが収縮する。この結果、起立部 700 として腹側起立部 710 と、背側起立部 720 と、股下起立部 730 が形成される。また、防漏壁 820 が形成される。さらに、第 1 の湾曲部 540 と、第 2 の湾曲部 183 と、第 3 の湾曲部 186 と、第 4 の湾曲部 187 が形成される。さらに、脚周りギャザー 410 と胴周りギャザー 530 と防漏ギャザー 840 が形成される。そして、ペット用使い捨ておむつ 10 は脚周り用伸縮性弾性部材 400 と、胴周り用弾性伸縮性弾性部材 500 と、防漏シート伸縮性弾性部材 600 の収縮により、形状が安定化される。

30

【0076】

次に使用者は、ペット用使い捨ておむつ 10 の尻尾挿通開口 190 にペット α の尻尾を挿通する。

次に使用者は、背側胴周り域 110 をペット α の背に密接させつつ、股下域 120 および腹側胴周り域 130 でペット α の股間乃至腹を被覆するとともに、止着部 300 の自由部 310 を止着領域 900 に止着する。これにより、ペット α へのペット用使い捨ておむつ 10 の装着がなされる。

このペット用使い捨ておむつ 10 のペット α の装着に係る事項が、本発明に係る「ペット用使い捨ておむつをペットへ装着する状態においては、背側胴周り域がペットの背に密接されつつ、股下域および腹側胴周り域がペットの股間乃至腹に被覆されるとともに、止着部が止着領域に止着され」の一例である。

40

【0077】

ここで、使用者が背側胴周り域 110 をペット α の背に密接させる際のペット用使い捨て紙おむつ 10 の状態を、図 18 に基づき説明する。

背側端部 130A には、おむつ外側表面 100Z2 方向に突出されている第 1 の湾曲部 540 が形成されている。また、第 4 の湾曲部 187 により背側端部 130A から尻尾挿通口 190 に亘る領域の形状が安定している。また、第 2 の湾曲部 183 により、第 2 の収縮力交差領域 182 とともに背側フラップ部 160 がペット用使い捨ておむつ 10 の内側表面 100Z1 方向に湾曲される。

すなわち、背側端部 130A をペット α の背の湾曲に容易に配置することができる。

50

また、背側端部 130A がめくれる可能性が低い。

【0078】

ここで、使用者が、股下域 120 および腹側胴周り域 130 でペット α の股間乃至腹を被覆するとともに、止着部 300 の自由部 310 を止着領域 900 に止着する際のペット用使い捨ておむつ 10 の状態を、図 19 にて説明する。

腹側端部 110A には、おむつ外側表面 100Z2 方向に突出されている第 1 の湾曲部 540 が形成されている。また、第 3 の湾曲部 186 により腹側端部 110A から尻尾挿通口 190 に亘る領域の形状が安定している。

また、第 2 の湾曲部 183 により、第 1 の収縮力交差領域 181 とともに腹側フラップ部 150 がペット用使い捨ておむつ 10 の内側方向 100Z1 に湾曲される。一方、腹側フラップ部 150 は止着部 300 を有しているため、腹側フラップ部 150 は、本体部 140B との境界部分よりも、長手交差方向側端部 150B の方が重い。よって、腹側フラップ部 150 における本体 140B との境界部分は第 2 の湾曲部 183 とともに内側方向 100Z1 へ向けて湾曲する。一方、腹側フラップ部 150 における長手交差方向側端部 150A は、その自重により外側方向 100Z2 へ向けて湾曲する。この結果、止着部 300 は真下に垂れ下がらない状態で腹側フラップ部 150 に支持される。

すなわち、使用者は、腹側端部 110A をペット α の腹の湾曲に容易に配置することができる。

また、腹側端部 110A がめくれる可能性が低い。

また、使用者は止着部 300 を容易に把持しやすい。

さらに、止着部 300 を使用者が止着領域 900 へ向けて移動させる際、第 1 の収縮力交差領域 180 の影響を受ける。よって、使用者が、止着部 300 をどのような位置に移動させても収縮力が働く。この結果、使用者は容易に止着部 300 を止着領域 900 の所望の位置に移動することができる。

【0079】

図 20 は、ペット用使い捨ておむつ 10 をペット α に着用した状態を示す図である。

ペット用使い捨ておむつ 10 をペットに装着した後でも、脚周用伸縮性弾性部材 400 と、胴周用弾性伸縮性弾性部材 500 と、防漏シート伸縮性弾性部材 600 との収縮状態は継続する。この結果、起立部 700 として形成された腹側起立部 710 と、背側起立部 720 と、股下起立部 730 はその起立状態を継続する。また、防漏壁 820 の形成状態は継続する。さらに、第 1 の湾曲部 540 と、第 2 の湾曲部 183 と、第 3 の湾曲部 186 と、第 4 の湾曲部 187 の湾曲状態は継続する。さらに、脚周りギャザー 410 と胴周りギャザー 530 と防漏ギャザー 840 の形成状態は継続する。

【0080】

ペット α が排泄を行った場合、排泄物収容空間 850 内に排泄物が保持される。排泄物が尿である場合は、吸収性コア 200 に吸収される。排泄物が便の場合は、便の一部が吸収性コア 200 に吸収され、残りの便が排泄物収容空間 850 内に保持される。

排泄物がいずれの場合であっても、吸収性コア 200 の重量は、止着部 300 の自由部 310 における止着部長手方向 300X で受けられる。

これが、本発明に係る「ペット用使い捨ておむつをペットが装着している状態においては、排泄時の吸収性コアの重量が止着部の長手方向で受けられる」の一例である。

【0081】

ペット α に着用されたペット用使い捨ておむつ 10 を取り外す場合には、係止領域 900 から係止部 300 を取り外す。そして、尻尾挿通開口 190 からペット用使い捨ておむつ 10 を引き抜く。そして、ペット用使い捨ておむつ 10 を廃棄する。

この内、係止領域 900 から係止部 300 を取り外し、尻尾挿通開口 190 からペット用使い捨ておむつ 10 を引き抜く工程において、腹側端部 130A は、ペット α の斜め下側方向に向けられる。この場合であっても、腹側起立部 710 により、便が転落する可能性を減少させることができる。

【0082】

以下、図 2 1～図 5 0 に基づき、本発明に係る第 2 の実施形態～第 2 9 の実施形態につき説明する。なお、第 2 の実施形態～第 2 9 の実施形態の説明において、上記第 1 の実施形態と同様の構成を有する構成要素は、その説明、図面符号などを省略する。

【0083】

(第 2 の実施形態)

本発明に係る第 2 の実施形態を、図 2 1 に基づき説明する。第 2 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 1 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 に比して、識別領域 1 1 A が第 2 の延出識別領域 1 1 A 1 として形成されているものである。

すなわち、識別領域 1 1 A は、ペット用使い捨ておむつ 1 1 の背側フラップ部 1 6 0における長手方向端部からおむつ長手方向に向かって延出されている。

10

識別領域 1 1 A を第 2 の延出識別領域 1 1 A 1 として構成することにより、ペット用使い捨ておむつ 1 1 をペットに装着した場合、背側フラップ部 1 6 0 の折れ曲りを確認することができる。すなわち、ペット用使い捨ておむつ 1 1 をペットに装着した場合、第 2 の延出識別領域 1 1 A 1 が視認できれば背側フラップ部 1 6 0 は折れ曲っていない。一方、第 2 の延出識別領域 1 1 A 1 が視認できない場合や、第 2 の延出識別領域 1 1 A 1 が折れ曲っている場合は、背側フラップ部 1 6 0 が折れ曲っている。

【0084】

(第 3 の実施形態)

本発明に係る第 3 の実施形態を、図 2 2 に基づき説明する。第 3 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 2 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 に比して、識別領域 1 2 A が背側フラップ部 1 6 0 における他の領域とは異なる配色を施された配色識別領域 1 2 A 1 として構成されている。

20

識別領域 1 2 A を配色識別領域 1 2 A 1 として構成することにより、ペット用使い捨ておむつ 1 2 をペットに装着した場合、背側フラップ部 1 6 0 の折れ曲りを確認することができる。すなわち、ペット用使い捨ておむつ 1 2 をペットに装着した場合、配色識別領域 1 2 A 1 が視認できれば背側フラップ部 1 6 0 は折れ曲っていない。一方、配色識別領域 1 2 A 1 が視認できない場合や、配色識別領域 1 2 A 1 が折れ曲っている場合は、背側フラップ部 1 6 0 が折れ曲っている。

【0085】

(第 4 の実施形態)

30

本発明に係る第 4 の実施形態を、図 2 3 に基づき説明する。第 4 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 3 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 に比して、識別領域 1 3 A が腹側フラップ部 1 5 0 に設けられている。

この腹側フラップ部 1 5 0 に設けられた識別領域 1 3 A は、背側フラップ部 1 6 0 の状態を確認するための視認領域 1 3 A 1 とされる。

第 4 の実施形態においては、視認領域 1 3 A 1 は、光線を透過することができる光線透過識別領域 1 3 A 2 にて形成されている。

光線透過識別領域 1 3 A 2 は、具体的には光線を透過することができる周知の不織布もしくは周知のフィルムにて、腹側フラップ部 1 5 0 を形成することにより実現される。なお、光線を透過することができる程度とは、背側フラップ部 1 6 0 の上に腹側フラップ部 1 5 0 を配置した場合、背側フラップ部 1 6 0 から腹側フラップ部 1 5 0が透けて見えれば足りるものである。

40

識別領域 1 3 A を、視認領域 1 3 A 1 である光線透過識別領域 1 3 A 2 として構成することにより、ペット用使い捨ておむつ 1 3 をペットに装着した場合、背側フラップ部 1 6 0 の折れ曲りを確認することができる。すなわち、ペット用使い捨ておむつ 1 3 をペットに装着した場合、光線透過識別領域 1 3 A 2 を通して背側フラップ部 1 6 0 の状況を視認することができる。

【0086】

(第 5 の実施形態)

本発明に係る第 5 の実施形態を、図 2 4 に基づき説明する。第 5 の実施形態に係るペッ

50

ト用使い捨ておむつ１４は、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０に比して、識別領域１４Ａである視認領域１４Ａ１が、腹側フラップ部の腹側方向端部を切欠いて形成された切欠き識別領域１４Ａ２にて構成されている。

識別領域１４Ａを、視認領域１４Ａ１である切欠き識別領域１４Ａ２として構成することにより、ペット用使い捨ておむつ１４をペットに装着した場合、背側フラップ部１６０の折れ曲りを確認することができる。すなわち、ペット用使い捨ておむつ１４をペットに装着した場合、切欠き識別領域１４Ａ２を通して背側フラップ部１６０の状況を視認することができる。

【００８７】

（第６の実施形態）

本発明に係る第６の実施形態を、図２５に基づき説明する。第６の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１５は、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０に比して、識別領域１５Ａである視認領域１５Ａ１が、腹側フラップ部１６０を開口して形成された第１の開口識別領域１５Ａ２にて構成されている。

識別領域１５Ａを、視認領域１５Ａ１である第１の開口識別領域１５Ａ２として構成することにより、ペット用使い捨ておむつ１５をペットに装着した場合、背側フラップ部１６０の折れ曲りを確認することができる。すなわち、ペット用使い捨ておむつ１５をペットに装着した場合、第１の開口識別領域１５Ａ２を通して背側フラップ部１６０の状況を視認することができる。

【００８８】

（第７の実施形態）

本発明に係る第７の実施形態を、図２６に基づき説明する。第７の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１６は、第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０に比して、識別領域１６Ａである視認領域１６Ａ１が、腹側フラップ部１６０を開口して形成された第２の開口識別領域１６Ａ２と、第２の開口識別領域１６Ａ２を覆うとともに該第２の開口識別領域１６Ａ２に対して開閉自在に形成された蓋領域１６Ａ２２とにより構成されている。

第２の開口領域１６Ａ２は、腹側フラップ部１６０に設けられた開口部１６Ａ２１により形成される。

蓋領域１６Ａ２２は、第１の蓋部１６Ａ２２１と、第２の蓋部１６Ａ２２３とにより形成される。第１の蓋部１６Ａ２２１と第２の蓋部１６Ａ２２３は、開口部１６Ａ２１を覆うように並べて配置されている。第１の蓋部１６Ａ２２１と第２の蓋部１６Ａ２２３が対向する箇所は、開口部１６Ａ２１の中央部に相当する。第１の蓋部１６Ａ２２１における、第２の蓋部１６Ａ２２３との対向箇所以外の端部は、第１の接着領域１６Ａ２２２として接着剤により外層シートに接続されている。第２の蓋部１６Ａ２２３における、第１の蓋部１６Ａ２２１との対向箇所以外の端部は、第２の接着領域１６Ａ２２４として接着剤により外層シートに接続されている。

識別領域１６Ａを、視認領域１６Ａ１である第２の開口識別領域１６Ａ２と蓋領域１６Ａ２２として構成することにより、ペット用使い捨ておむつ１６をペットに装着した場合、背側フラップ部１６０の折れ曲りを確認することができる。すなわち、ペット用使い捨ておむつ１６をペットに装着した場合、図２７に示すように、第１の蓋部１６Ａ２２１と第２の蓋部１６Ａ２２３を押し広げ、第２の開口識別領域１６Ａ２を露出させる。そして、第２の開口領域１６Ａ２を通して背側フラップ部１６０の状況を視認することができる。

【００８９】

なお、第１の実施形態～第７の実施形態により、識別領域の構成を種々説明した。一方、本願発明に係る識別領域の構成は、上述した構成に限らないものである。

さらに、識別領域を、背側フラップ部に設けられた背側フラップ部識別領域と、腹側フラップ部に設けられた腹側フラップ部領域とにより構成することも可能である。

【００９０】

(第 8 の実施形態)

本発明に係る第 8 の実施形態を、図 28 に基づき説明する。第 8 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 17 は、背側フラップ部 161 の側端部 161B の形状が、おむつ長手方向に関して暫時異なる。この暫時異なる側端部 161B の形状は、直線により形成されている。

また、側端部 161B の極大領域 161B1 は、第 1 の直線部 161BA と第 2 の直線 161BB 分とが交差する部分により形成されている。したがって、極大領域 161B1 とおむつ長手方向の仮想線とが交差する部分は点状となる。

このように構成された第 8 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 17 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 と同等の作用・効果を奏する。

10

【0091】

(第 9 の実施形態)

本発明に係る第 9 の実施形態を、図 29 に基づき説明する。第 9 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 18 は、背側フラップ部 162 の側端部 162B の形状が、おむつ長手方向に関して暫時異なる領域と、おむつ長手方向に平行な領域とにより構成されている。

また、背側フラップ部 162 における側端部 162B の形状がおむつ長手方向に関して暫時異なる領域が、概ね円弧状の曲線により形成されている。この概ね円弧状の曲線は、第 1 の円弧部 162BA と第 2 の円弧部 162BC とにより構成される。

また、背側フラップ部 162 の側端部 162B における形状が、極大領域 162B1 を極大値とする直線部 162BB により形成されている。

20

このように構成された第 9 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 18 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 と同等の作用・効果を奏する。

【0092】

(第 10 の実施形態)

本発明に係る第 10 の実施形態を、図 30 に基づき説明する。第 10 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 19 は、背側フラップ部 163 の側端部 163B の形状が、おむつ長手方向に関して暫時異なる領域と、おむつ長手方向に平行な領域とにより構成されている。

また、背側フラップ部 163 における側端部 163B の形状がおむつ長手方向に関して暫時異なる領域が、直線により形成されている。この直線は、第 1 の直線部 163BA と第 3 の直線部 163BC とにより構成される。

30

また、背側フラップ部 163 の側端部 163B における形状が、極大領域 163B1 を極大値とする第 3 の直線部 163BB により形成されている。

このように構成された第 10 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 19 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 と同等の作用・効果を奏する。

【0093】

(第 11 の実施形態)

本発明に係る第 11 の実施形態を、図 31 に基づき説明する。第 11 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 20 は、第 2 の止着領域 901B における側端部 901BB の形状が、おむつ長手方向に関して暫時異なるように構成されている。

40

この際、第 2 の止着領域 901B の側端部における側端部 901BB の形状が概ね円弧状とされている。

このように構成された第 11 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 20 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 と同等の作用・効果を奏する。

【0094】

(第 12 の実施形態)

本発明に係る第 12 の実施形態を、図 32 に基づき説明する。第 12 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 21 は、第 2 の止着領域 902B における側端部 902BB の形状が、おむつ長手方向に関して暫時異なるように構成されている。

50

この際、第2の止着領域902Bの側端部における側端部902BBの形状が直線状とされている。すなわち、側端部901BBは、第1の直線部902BB1と第2の直線部902BB2とにより構成されている。

このように構成された第12の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ21は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10と同等の作用・効果を奏する。

【0095】

(第13の実施形態)

本発明に係る第13の実施形態を、図33に基づき説明する。第13の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ22は、背側フラップ部164におけるおむつ長手交差方向の長さは、腹側フラップ部151における前記おむつ長手交差方向の長さよりも長い

10

このように構成された第13の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ22は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10と同等の作用・効果を奏する。

【0096】

(第14の実施形態)

本発明に係る第14の実施形態を、図34に基づき説明する。第14の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ23は、止着領域901として第1の止着領域901Aのみがペット用使い捨ておむつ23の外側表面100Z2全体に亘り配置されている。

このように構成された第14の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ23は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10と同等の作用・効果を奏する。

20

【0097】

(第15の実施形態)

本発明に係る第15の実施形態を、図35に基づき説明する。第15の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ24は、止着領域902として第1の止着領域902Aが、背側胴周り域におけるおむつ本体部と背側フラップ部とに亘る外側表面100Z2に配置されている。

なお、第1の止着領域902Aが配置されていない外側表面100Z2には、止着部のフック部に対し係合力を有さない不織布を使用することができる。

これが、本発明に係る「第1の止着領域が、背側胴周り域におけるおむつ本体部と背側フラップ部とに亘る外側表面に配置されている」の一例である。

このように構成された第15の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ24は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10と同等の作用・効果を奏する。

30

【0098】

(第16の実施形態)

本発明に係る第16の実施形態を、図36に基づき説明する。第16の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ25は、止着領域903として第1の止着領域903Aが、背側胴周り域におけるおむつ本体部の外側表面100Z2に配置されている

なお、第1の止着領域903Aが配置されていない背側フラップ部外側表面には、止着部のフック部に対し係合力を有さない不織布を使用することができる。

これが、本発明に係る「第1の止着領域が、背側胴周り域におけるおむつ本体部の外側表面に配置されている」の一例である。

40

このように構成された第16の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ25は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10と同等の作用・効果を奏する。

【0099】

(第17の実施形態)

本発明に係る第17の実施形態を、図37および図38に基づき説明する。第17の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ26は、係止領域904の第1の係止領域904Aにおいて、第3の溶着部931Cが、間隔を空けて連続して配置された第3の溶着短線931C2により形成されている。

ここで、第3の溶着部931Cが、第3の溶着短線931C2である場合における、第3の隣接溶着部931CBにおける一对の第3の溶着短線931C2の関係を説明する。

50

まず、第3の溶着短線931C2の両端部を経由する、第3の方向と直交する方向へ延びる直線を仮想線931CBLとする。

第3の隣接溶着部931CBにおいては、隣接する一对の第3の溶着部931C同士において、一方の第3の溶着部931Cにおいては仮想線931CBL内に第3の溶着短線931C2が配置される。しかし、他方の第3の溶着部931Cにおいては、他方の第3の溶着短線931C2同士の間隔が存在するものである。このような関係を「隣接溶着部における溶着短線が、互いに重ならない」と定義する。

一方、第3の溶着部931Cが第3の溶着短線931C2である場合において、第3の隣接溶着部931CBとなる一对の第3の溶着部931Cの他の配置形態を考慮する。

第3の隣接溶着部931CBにおいて、第3の方向と直交する方向に一对の第3の溶着短線931C2同士が存在する場合がある。このような関係を「隣接溶着部における溶着短線が、互いに重なり合う」と定義する。

この、「隣接溶着部における溶着短線が、互いに重なり合う」関係や、「溶着隣接部における溶着短線が、互いに重ならない」関係は、第1の溶着部、第2の溶着部にもそれぞれ形成される。すなわち、得るべきループ部の構成に応じて、これらの「隣接溶着部における溶着短線」の関係を、適宜選択し得るものである。

【0100】

図38にて、第17の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ26の圍繞部931Dの説明を行う。

第1の溶着部931Aである第1の溶着連続線931A1と、第2の溶着部931Bである第2の溶着連続線931B1とにより圍繞部931Dが形成されている。

この圍繞部931Dにおいては、第1のループ部931L1と、第2のループ部931L2が形成されている。

さらに、第3の溶着部931Cが第3の溶着短線931C2であることから、第1の溶着部931Aから、第3の溶着部931Cにおける第3の溶着短線931C2同士の間隔を経由して第2の溶着部931Bに亘る熱可塑性繊維により形成され、止着部のフック部に着脱自在に係止される第3のループ部931L3が形成される。

さらに、第1の隣接溶着部931ABにおける一方の第1の溶着部931Aから、第3の溶着部931Cにおける第3の溶着短線931C2同士の間隔を経由して他方の第1の溶着部931Aに亘る熱可塑性繊維により形成され、止着部のフック部に着脱自在に形成される第4のループ部931L4が形成される。

さらに、第2の隣接溶着部931BBにおける一方の第2の溶着部931Bから、第3の溶着部931Cにおける第3の溶着短線931C2同士の間隔を経由して他方の第2の溶着部931Bに亘る熱可塑性繊維により形成され、止着部のフック部に着脱自在に形成される第5のループ部931L5が形成される。

このように構成された第17の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ26は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10に比して、異なる構成のフック部に適した構成となる。

【0101】

(第18の実施形態)

本発明に係る第18の実施形態を、図39に基づき説明する。第18の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ27は、係止領域905の第1の係止領域905Aにおいて、第1の溶着部932Aが第1の溶着短線932A2として形成され、第2の溶着部932Bが第2の溶着短線932B2として形成され、第3の溶着部932Cが第3の溶着短線932C2として形成されている。

この構成により、第1～第5のループ部の他に、隣接する圍繞部932D間に亘る熱可塑性繊維により形成され、止着部のフック部に着脱自在に形成される第6のループ部を形成することができる。

なお、第1の隣接溶着部932ABにおける第1の溶着短線932A2は、互いに重なり合う。第2の隣接溶着部932BBにおける第2の溶着短線932B2は、互いに重なり

10

20

30

40

50

り合う。

このように構成された第18の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ27は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10に比して、異なる構成のフック部に適した構成となる。

【0102】

(第19の実施形態)

本発明に係る第19の実施形態を、図40に基づき説明する。第19の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ28は、係止領域906の第1の係止領域906Aにおいて、第1の溶着部933Aが第1の溶着短線933A2として形成され、第2の溶着部933Bが第2の溶着短線933B2として形成され、第3の溶着部933Cが第3の溶着短線933C2として形成されている。

第3の溶着短線933C2は、隣接する囲繞部933Dに亘り設けられている。

この構成により、第1～第6のループ部として、前述の第1の実施形態、第17の実施形態、第18の実施形態とは異なる長さの第1～第6のループ部を形成することができる。

このように構成された第19の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ28は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10に比して、異なる構成のフック部に適した構成となる。

【0103】

(第20の実施形態)

本発明に係る第20の実施形態を、図41に基づき説明する。第20の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ29は、係止領域907の第1の係止領域907Aにおいて、第1の溶着部934Aが第1の溶着短線934A2として形成され、第2の溶着部934Bが第2の溶着短線934B2として形成され、第3の溶着部934Cが第3の溶着短線934C2として形成されている。

さらに、第1の溶着部934Aが、並列された第1の溶着部934Aにより構成されている。第2の溶着部934Bが、並列された第2の溶着部934Bにより構成されている。

この構成により、第1～第6のループ部として、前述の第1の実施形態、第17の実施形態、第18の実施形態、第19の実施形態とは異なる長さの第1～第6のループ部を形成することができる。

このように構成された第20の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ29は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10に比して、異なる構成のフック部に適した構成となる。

【0104】

(第21の実施形態)

本発明に係る第21の実施形態を、図42に基づき説明する。第21の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ30は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10に比して、脚周用伸縮性弾性部材401を複数の脚周用伸縮性弾性部材により構成するものである。すなわち、この第21の実施形態に係る脚周用伸縮性弾性部材401は、複数の脚周用伸縮性弾性部材をおむつ長手方向に間隔をあけて連続的に配置することで構成されている。この場合、連続的に配置される脚周用伸縮性弾性部材の数については、実現しようとするペット用使い捨ておむつに応じて選択し得るものである。

本発明に係る第21の実施形態においては、おむつ長手方向に連続する脚周用伸縮性弾性部材401を、3つの脚周用伸縮性弾性部材により形成している。すなわち、腹側胴周域に配置される脚周用伸縮性弾性部材401A、股下域に配置される脚周用伸縮性弾性部材401B、腰周用伸縮性弾性部材401Cとにより構成されている。

この第21の実施形態においても、第1の実施形態と同様に、起立部700として、腹側起立部710と、背側起立部720と、股下起立部730が形成される。また、防漏壁820が形成される。また、第1の湾曲部540として第1の腹側湾曲部541と第1の

10

20

30

40

50

背側湾曲部 5 4 2 と、第 2 の背側湾曲部 1 8 4 として第 2 の腹側湾曲部 1 8 5 と第 2 の背側湾曲部 1 8 5 と、第 3 の湾曲部 1 8 6 と、第 4 の湾曲部 1 8 7 が形成される。また、脚周りギャザー 4 1 0 と胴周りギャザー 5 3 0 と防漏ギャザー 8 4 0 が形成される。

よって、この第 2 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 0 は、上述した第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 と同様の作用および効果を奏する。

さらに、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 1 が、3 つの脚周り用伸縮性弾性部材により形成されているため、それぞれの脚周り用伸縮性弾性部材の伸縮力が影響しにくい。よって、例えば腹側胴周り域でズレが生じていても、背側胴周り域への影響が少なく、全体としてズレを生じにくい構成となる。

【0 1 0 5】

(第 2 2 の実施形態)

本発明に係る第 2 2 の実施形態を、図 3 0 に基づき説明する。第 2 2 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 1 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 に比して、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 2 がおむつ長手方向に連続されていないものである。

すなわち、本発明に係る第 2 2 の実施形態においては、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 2 は、ペット用使い捨ておむつ 3 1 の腹側胴周り域に配置された脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 2 A と、背側胴周り域に配置された脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 2 B とにより構成される。

この第 2 2 の実施形態と第 1 の実施形態と比較すると、第 2 2 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 1 は、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 2 A および 4 0 2 B が配置された領域にのみ脚周りギャザー 4 1 0、第 4 の湾曲部 1 8 7 が形成されるという点で異なる。

一方、起立部 7 0 0 として、腹側起立部 7 1 0 と、背側起立部 7 2 0 と、股下起立部 7 3 0 が形成される。また、防漏壁 8 2 0 が形成される。また、第 1 の湾曲部 5 4 0 として第 1 の腹側湾曲部 5 4 1 と第 1 の背側湾曲部 5 4 2 と、第 2 の湾曲部 1 8 3 として第 2 の腹側湾曲部 1 8 4 と第 2 の背側湾曲部 1 8 5 と、第 3 の湾曲部 1 8 6 と、第 4 の湾曲部 1 8 7 の一部が形成される。また、脚周りギャザー 4 1 0 の一部と、胴周りギャザー 5 3 0 と、防漏ギャザー 8 4 0 が形成される。

よって、この第 2 2 の実施形態のペット用使い捨ておむつ 3 1 は、上述した第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 が奏する作用および効果の内、脚周りギャザー 4 1 0 の全部および第 4 の湾曲部 1 8 7 の全部が奏する以外の作用および効果を奏する。

さらに、吸収性コアが配置された股下領域で伸縮性弾性部材を有さず、防漏ギャザー自由端の伸縮性弾性部材を有さないため、吸収性コアが縮まない。よって、吸収性コアの面積を有効に使うことができる。

また、吸収性コアにおける長手方向上の両端部にポケット空間を設けやすい。

加えて、止着領域に伸縮性弾性部材が無い。よって、止着領域が縮まないため、止着部材を止着領域に係合させやすい。

【0 1 0 6】

(第 2 3 の実施形態)

本発明に係る第 2 3 の実施形態を、図 4 4 に基づき説明する。第 2 3 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 2 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 に比して、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 3 が背側胴周り域に配置されていないものである。また、防漏シート用弾性伸縮性弾性部材の収縮力は、ペット用使い捨ておむつ 3 2 の腹側端部には影響を及ぼさないものである。

この第 2 3 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 2 と、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 とを比較する。第 2 3 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 2 は、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 3 が配置された領域にのみ脚周りギャザー 4 1 0 および第 4 の湾曲部 1 8 7 が形成される。また、起立部 7 0 0 の内の背側起立部 7 2 0 と、第 2 の湾曲部 1 8 3 の内の第 2 の背側湾曲部 1 8 5 とが形成されない。

一方、起立部 7 0 0 として、腹側起立部 7 1 0 と股下起立部 7 3 0 が形成される。また、防漏壁 8 2 0 が形成される。また、第 1 の湾曲部 5 4 0 として第 1 の腹側湾曲部 5 4 1

10

20

30

40

50

と第1の背側湾曲部541と、第2の背側湾曲部184として第2の腹側湾曲部185と、第3の湾曲部186と、第4の湾曲部187の一部とが形成される。また、脚周りギャザー410の一部と胴周りギャザー530と防漏ギャザー840が形成される。

よって、この第23の実施形態のペット用使い捨ておむつ32は、上述した第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10が奏する作用および効果の内、脚周りギャザー410の全部と、背側起立部720と、第2の背側湾曲部185と、第4の湾曲部187の全部とが奏する以外の作用および効果を奏する。

さらに、吸収性コアの背側端部方向および腹側端部方向にポケット空間を設けやすい。

【0107】

(第24の実施形態)

本発明に係る第24の実施形態を、図45に基づき説明する。第24の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ33は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10に比して、脚周り用伸縮性弾性部材404が腹側胴周り域に配置されていないものである。また、防漏シート用弾性伸縮性弾性部材の収縮力は、ペット用使い捨ておむつ33の背側端部には影響を及ぼさないものである。

この第24の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ33と、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10とを比較する。第24の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ33は、脚周り用伸縮性弾性部材404が配置された領域にのみ脚周りギャザー410が形成される。また、起立部700の内の腹側起立部710と、第2の湾曲部183の内の第2の腹側湾曲部184とが形成されない。

一方、起立部700として、背側起立部720と股下起立部730が形成される。また、防漏壁820が形成される。また、第1の湾曲部540として第1の腹側湾曲部541と第1の背側湾曲部185と、第2の背側湾曲部184として第2の腹側湾曲部185と、第3の湾曲部186と、第4の湾曲部187とが形成される。また、脚周りギャザー410の一部と胴周りギャザー530と防漏ギャザー840が形成される。

よって、この第24の実施形態のペット用使い捨ておむつ33は、上述した第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10が奏する作用および効果の内、脚周りギャザー410の全部と、腹側起立部710と、第2の腹側湾曲部184とが奏する以外の作用および効果を奏する。

さらに、吸収性コアに収縮力が働かないため、吸収性コアの面積を有効活用できる。

また、背側領域側にのみに脚周り用伸縮性弾性部材を有するため、ペットの背中にペット用使い捨ておむつを沿わせやすい。その結果、止着部を止着領域に係合させやすい。

【0108】

(第25の実施形態)

本発明に係る第25の実施形態を、図46に基づき説明する。第25の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ34は、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10に比して、脚周り用伸縮性弾性部材を有さないものである。一方、防漏シート用伸縮性弾性部材601が、ペット用使い捨ておむつ34の腹側端部から背側端部に亘り配置されている。この際、防漏シートの固定部において、腹側固定部および背側固定部は、それぞれペット用使い捨ておむつ34の腹側端部および背側端部に形成されている。また、防漏シート用伸縮性弾性部材601は胴周り用伸縮性弾性部材の内、腹側胴周り用伸縮性弾性部材と背側胴周り用弾性部材のそれぞれと重ねられている。

この第25の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ34と、第1の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ10とを比較する。第25の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ34は、防漏シート用伸縮性弾性部材601により、起立部700として腹側起立部710と背側起立部720と、防漏壁820と、防漏ギャザー840と、第3の湾曲部186と、第4の湾曲部187が形成される。

胴周り伸縮性弾性部材として、腹側胴周り用伸縮性弾性部材により第1の腹側湾曲部541が、背側胴周り用伸縮性弾性部材により第1の背側湾曲部542がそれぞれ形成される。

防漏シート用伸縮性弾性部材 601 の収縮力と、腹側胴周用伸縮性弾性部材の収縮力により第 1 の収縮力交差領域 181 が形成され、第 2 の腹側湾曲部 184 が形成される。

防漏シート用伸縮性弾性部材 601 の収縮力と、背側胴周用伸縮性弾性部材の収縮力により第 2 の収縮力交差領域 182 が形成され、第 2 の背側湾曲部 185 が形成される。

すなわち、第 25 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 34 においては、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 に比して、股下側起立部 730 と、脚周りギャザー 410 が形成されない。

よって、この第 25 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 34 は、上述した第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 が奏する作用および効果の内、脚周りギャザー 410 と、股下側起立部 730 とが奏する以外の作用および効果を奏する。

10

さらに、この第 25 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 34 にあっては、脚周用伸縮性弾性部材が形成されていないため、ペット用使い捨ておむつ 34 の長手交差方向上の端部を、吸収性コアに近づけることができる。この結果、ペット用使い捨ておむつ 34 において、ペットの脚周りに接触する部分をより減少させることができる。

また、脚周りを形成するシートが無い場合、ペット用使い捨ておむつを装着した際に、脚周りをすっきりさせることができる。

【0109】

(第 26 の実施形態)

本発明に係る第 26 の実施形態を、図 47 に基づき説明する。第 26 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 35 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 に比して、脚周用伸縮性弾性部材 404 が腹側胴周領域と背側胴周領域に配置されていないものである。また、防漏シート用伸縮性弾性部材の収縮力は、ペット用使い捨ておむつ 35 の腹側端部には影響を及ぼさないものである。また、腹側胴周用伸縮性弾性部材 511 は、係止部 301 と重ねられている。本発明に係る「腹側胴周用伸縮性弾性部材と係止部が重なる」とは、腹側胴周用伸縮性弾性部材と係止部とが直接接触していることを指すものではない。つまり、腹側胴周用伸縮性弾性部材の収縮力が、フラップ部を経由せずに、直接的に係止部に作用することを示すものである。

20

この第 26 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 35 と、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 とを比較する。第 26 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 35 は、脚周用伸縮性弾性部材 405 が配置された領域にのみ脚周りギャザー 410 が形成される。また、起立部 700 の内の腹側起立部 710 と背側起立部 720 が形成されない。第 2 の湾曲部 183 の内の第 2 の腹側湾曲部 184 と第 2 の背側湾曲部 185 とが形成されない。第 4 の湾曲部 187 は、脚周用伸縮性弾性部材 405 が配置されている領域にのみ形成される。

30

一方、起立部 700 として、股下起立部 730 が形成される。また、防漏壁 820 が形成される。また、第 1 の湾曲部 540 として第 1 の腹側湾曲部 541 と第 1 の背側湾曲部 185 と、第 3 の湾曲部 186 と、第 4 の湾曲部 187 の一部とが形成される。脚周りギャザー 410 の一部と、防漏ギャザー 840 が形成される。

よって、この第 26 の実施形態のペット用使い捨ておむつ 35 は、上述した第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 が奏する作用および効果の内、股下起立部 730 と、防漏壁 820 と、第 1 の腹側湾曲部 541 と、第 1 の背側湾曲部 185 と、第 3 の湾曲部 186 と、第 4 の湾曲部 187 の一部と、脚周りギャザー 410 の一部と、防漏ギャザー 840 に基づく作用、効果を奏する。

40

さらに、腹側胴周用伸縮性弾性部材 511 が係止部 301 と重なっている。よって、ペット用使い捨ておむつ 35 を装着するにあたり、腹側胴周領域をペットの腹に当接した場合、係止部 301 が腹側胴周用伸縮性弾性部材 511 の収縮力の影響を受け、おむつ内面方向へ湾曲する。よって、使用者が止着部 301 を把持しやすくなる。

【0110】

(第 27 の実施形態)

本発明に係る第 27 の実施形態を、図 48 に基づき説明する。第 27 の実施形態に係る

50

ペット用使い捨ておむつ 36 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 に比して、脚周りに用伸縮性弾性部材 406 がペット用使い捨ておむつ 36 の腹側胴周り域および背側胴周り域に形成されていないものである。一方、防漏シート用伸縮性弾性部材 603 が、ペット用使い捨ておむつ 36 の腹側端部から背側端部に亘り配置されている。この際、防漏シートの固定部において、腹側固定部および背側固定部は、それぞれペット用使い捨ておむつ 36 の腹側端部および背側端部に形成されている。また、防漏シート用伸縮性弾性部材 603 は胴周りに用伸縮性弾性部材の内、腹側胴周りに用伸縮性弾性部材 512 と背側胴周りに用伸縮性弾性部材のそれぞれと重ねられている。また、腹側胴周りに用伸縮性弾性部材 512 は、係止部 302 と重ねられている。

この第 27 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 36 と、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 とを比較する。第 27 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 36 は、防漏シート用伸縮性弾性部材 603 により、起立部 700 として腹側起立部 710 と背側起立部 720 と、防漏壁 820 と、防漏ギャザー 840 と、第 3 の湾曲部 186 と、第 4 の湾曲部 187 が形成される。

胴周りに用伸縮性弾性部材として、腹側胴周りに用伸縮性弾性部材 512 により第 1 の腹側湾曲部 541 が、背側胴周りに用伸縮性弾性部材により第 1 の背側湾曲部 542 がそれぞれ形成される。

防漏シート用伸縮性弾性部材 603 の収縮力と、腹側胴周りに用伸縮性弾性部材の収縮力により第 1 の収縮力交差領域 181 が形成され、第 2 の腹側湾曲部 184 が形成される。

防漏シート用伸縮性弾性部材 603 の収縮力と、背側胴周りに用伸縮性弾性部材の収縮力により第 2 の収縮力交差領域 182 が形成され、第 2 の背側湾曲部 185 が形成される。

すなわち、第 27 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 36 においては、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 に比して、股下側起立部 730 と、脚周りギャザー 410 の一部が形成されない。

よって、この第 27 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 36 は、上述した第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 が奏する作用および効果の内、脚周りギャザー 410 の全部と、股下側起立部 730 とが奏する以外の作用および効果を奏する。

さらに、腹側領域および背側領域に胴周りに用伸縮性弾性部材を有さないことにより、ペットの胴周りに沿わせて、止着部材に係合させることができる。

また、吸収性コアにおけるおむつ長手方向の両端部にポケットを形成することができる。

さらに、腹側胴周りに用伸縮性弾性部材 512 が係止部 302 と重なっている。よって、ペット用使い捨ておむつ 36 を装着するにあたり、腹側胴周り域をペットの腹に当接した場合、係止部 302 が腹側胴周りに用伸縮性弾性部材 512 の収縮力の影響を受け、おむつ内面方向へ湾曲する。よって、使用者が止着部 302 を把持しやすくなる。

【0111】

(第 28 の実施形態)

本発明に係る第 28 の実施形態を、図 49 に基づき説明する。第 28 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 37 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 に比して、防漏シート用伸縮性弾性部材 604 が、ペット用使い捨ておむつ 37 の腹側端部から背側端部に亘り配置されている。この際、防漏シートの固定部において、腹側固定部および背側固定部は、それぞれペット用使い捨ておむつ 37 の腹側端部および背側端部に形成されている。また、防漏シート用伸縮性弾性部材 604 は胴周りに用伸縮性弾性部材の内、腹側胴周りに用伸縮性弾性部材 513 と背側胴周りに用伸縮性弾性部材のそれぞれと重ねられている。また、腹側胴周りに用伸縮性弾性部材 513 は、係止部 303 と重ねられている。

この第 28 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 37 と、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 10 とを比較する。第 28 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 37 は、脚周りに用伸縮性弾性部材 407 と防漏シート用伸縮性弾性部材 604 とにより、起立部 700 として腹側起立部 710 と背側起立部 720 と、脚周りギャザー 410 と、防漏壁 820 と、防漏ギャザー 840 と、第 3 の湾曲部 186 と、第 4 の湾曲部 187 が形成される。

胴周り伸縮性弾性部材として、腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 3 により第 1 の腹側湾曲部 5 4 1 が、背側胴周り用伸縮性弾性部材により第 1 の背側湾曲部 5 4 2 がそれぞれ形成される。

第 1 の収縮交差領域 1 8 1 としては、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 7 の収縮力と腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 3 の収縮力の交差によるものと、防漏シート用伸縮性弾性部材 6 0 4 の収縮力と腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 3 の収縮力によるものとの 2 つの構成が形成される。よって、第 2 の腹側湾曲部 1 8 4 としても、この 2 つの第 1 の収縮力交差領域 1 8 1 に伴い 2 つの構成が形成される。

第 2 の収縮交差領域 1 8 2 としては、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 7 の収縮力と背側胴周り用伸縮性弾性部材の収縮力の交差によるものと、防漏シート用伸縮性弾性部材 6 0 4 の収縮力と背側胴周り用伸縮性弾性部材収縮力によるものとの 2 つの構成が形成される。よって、第 2 の背側湾曲部 1 8 5 としても、この 2 つの第 2 の収縮力交差領域 1 8 2 に伴い 2 つの構成が形成される。

すなわち、第 2 8 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 7 においては、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 に比して、股下側起立部 7 3 0 が形成されない。

よって、この第 2 8 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 7 は、上述した第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 が奏する作用および効果の内、股下側起立部 7 3 0 が奏する以外の作用および効果を奏する。

さらに、腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 3 が係止部 3 0 3 と重なっている。よって、ペット用使い捨ておむつ 3 7 を装着するにあたり、腹側胴周り域をペットの腹に当接した場合、係止部 3 0 3 が腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 3 の収縮力の影響を受け、おむつ内面方向へ湾曲する。よって、使用者が止着部 3 0 3 を把持しやすくなる。

また、おむつ長手方向全体に収縮力が働くため、排泄物の漏れを生じにくい。よって、特に寝たきり状態のペットに適したものである。

【0 1 1 2】

(第 2 9 の実施形態)

本発明に係る第 2 9 の実施形態を、図 5 0 に基づき説明する。第 2 9 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 8 は、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 に比して、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 8 が背側胴周り域に形成されていない。さらに、防漏シート用伸縮性弾性部材 6 0 5 が、ペット用使い捨ておむつ 3 8 の腹側端部にまで形成されている。この際、防漏シートの固定部において、腹側固定部はペット用使い捨ておむつ 3 8 の腹側端部に形成されている。また、防漏シート用伸縮性弾性部材 6 0 4 は胴周り用伸縮性弾性部材の内、腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 4 と重ねられている。また、腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 4 は、係止部 3 0 4 と重ねられている。

この第 2 9 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 8 と、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 とを比較する。第 2 9 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 8 は、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 7 と防漏シート用伸縮性弾性部材 6 0 4 とにより、起立部 7 0 0 として腹側起立部 7 1 0 と股下側起立部 7 3 0 と、脚周りギャザー 4 1 0 の一部と、防漏壁 8 2 0 と、防漏ギャザー 8 4 0 と、第 3 の湾曲部 1 8 6 と、第 4 の湾曲部 1 8 7 の一部が形成される。

胴周り伸縮性弾性部材として、腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 4 により第 1 の腹側湾曲部 5 4 1 が形成される。

第 1 の収縮交差領域 1 8 1 としては、脚周り用伸縮性弾性部材 4 0 8 の収縮力と腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 4 の収縮力の交差によるものと、防漏シート用伸縮性弾性部材 6 0 5 の収縮力と腹側胴周り用伸縮性弾性部材 5 1 4 の収縮力によるものとの 2 つの構成が形成される。よって、第 2 の腹側湾曲部 1 8 4 としても、この 2 つの第 1 の収縮力交差領域 1 8 1 に伴い 2 つの構成が形成される。

すなわち、第 2 9 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 3 8 においては、第 1 の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ 1 0 に比して、背側起立部 7 2 0 と、脚周りギャザ

10

20

30

40

50

ー４１０の一部と、第１の背側湾曲部５４１と、第２の背側湾曲部５４２と、第４の湾曲部１８７の一部とが構成されない。

よって、この第２９の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ３８は、上述した第１の実施形態に係るペット用使い捨ておむつ１０が奏する作用および効果の内、背側起立部７２０と、脚周りギャザー４１０の全部と、第１の背側湾曲部５４１と、第２の背側湾曲部５４２と、第４の湾曲部１８７の全部が奏する以外の作用および効果を奏する。

腹側領域にのみ収縮力が強く働く構成であり、吸収性コアの腹側領域方向にポケットを形成しやすい、よって、雄用のペット用使い捨ておむつとして好適である。

さらに、腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１４に係止部３０４と重なっている。よって、ペット用使い捨ておむつ３８を装着するにあたり、腹側胴周り域をペットの腹に当接した場合、係止部３０４が腹側胴周り用伸縮性弾性部材５１４の収縮力の影響を受け、おむつ内面方向へ湾曲する。よって、使用者が止着部３０４を把持しやすくなる。

10

【０１１３】

なお、本発明に係るペット用使い捨ておむつの構成は上述した構造に限らないものである。また、第１～第２９の実施形態に係る構成を適宜組み合わせることも可能である。

【０１１４】

(実施の形態と本発明の各構成要素の対応について)

ペット用使い捨ておむつ１０、１１、１２、１３、１４、１５、１６、１７、１８、１９、２０、２１、２２、２３、２４、２５、２６、２７、２８、２９、３０、３１、３２、３３、３４、３５、３６、３７、３８は、本発明に係る「ペット用使い捨ておむつ」の一例である。背側胴周り域１３０は、本発明に係る「背側胴周り域」の一例である。腹側胴周り域１１０は、本発明に係る「腹側胴周り域」の一例である。股下域１２０は、本発明に係る「股下域」の一例である。おむつ長手方向Ｙは、本発明に係る「おむつ長手方向」の一例である。おむつ長手交差方向Ｚは、本発明に係る「おむつ長手交差方向」の一例である。背側胴周り域端部１３０Ａは、本発明に係る「背側胴周り端部」の一例である。腹側胴周り域端部１１０Ａは、本発明に係る「腹側胴周り端部」の一例である。長手交差方向上における両端部１００Ａは、本発明に係る「端部」の一例である。内側表面１００Ｚ１は、本発明に係る「内側表面１００Ｚ１」の一例である。外側表面１００Ｚ２は、本発明に係る「外側表面」の一例である。尻尾挿通開口１９０は、本発明に係る「尻尾挿通開口」の一例である。吸収性コア２００は、本発明に係る「吸収性コア」の一例である。吸収性コア非配置領域１７０は、本発明に係る「吸収性コア非配置領域」の一例である。止着部３００、３０１、３０２、３０３、３０４は、本発明に係る「止着部」の一例である。止着領域９００、９０１、９０２、９０３、９０４、９０５、９０６、９０７は、本発明に係る「止着領域」の一例である。第１の止着領域９００Ａ、９０１Ａ、９０２Ａ、９０３Ａ、９０４Ａ、９０５Ａ、９０６Ａ、９０７Ａは、本発明に係る「第１の止着領域」の一例である。おむつ最短幅点１００ＡＰは、本発明に係る「おむつ最短幅点」の一例である。フラップ境界線１００Ｙ１は、本発明に係る「仮想境界線」の一例である。本体部１４０Ｂは、本発明に係る「本体部」の一例である。背側フラップ部１６０、１６１、１６２、１６３、１６４は、本発明に係る「背側フラップ部」の一例である。腹側フラップ部１５０は、本発明に係る「腹側フラップ部」の一例である。第２の止着領域９００Ｂ、９０１Ｂ、９０２Ｂは、本発明に係る「第２の止着領域」の一例である。第１の溶着部９３０Ａ、９３１Ａ、９３２Ａ、９３３Ａ、９３４Ａは、本発明に係る「第１の溶着部」の一例である。第１の溶着部群９３０ＡＡは、本発明に係る「第１の溶着部群」の一例である。第１の隣接溶着部群９３０ＡＢ、９３１ＡＢ、９３２ＡＢは、本発明に係る「第１の隣接溶着部群」の一例である。第２の溶着部９３０Ｂ、９３１Ｂ、９３２Ｂ、９３３Ｂ、９３４Ｂは、本発明に係る「第２の溶着部」の一例である。第２の溶着部群９３０ＢＡは、本発明に係る「第２の溶着部群」の一例である。第２の隣接溶着部群９３０ＢＢ、９３１ＢＢ、９３２ＢＢは、本発明に係る「第２の隣接溶着部群」の一例である。囲繞部９３０Ｄ、９３１Ｄ、９３２Ｄ、９３３Ｄ、９３４Ｄは、本発明に係る「囲繞部」の一例である。第３の溶着部９３０Ｃ、９３１Ｃ、９３２Ｃ、９３３Ｃ、９３４Ｃは、本発明に係

20

30

40

50

る「第3の溶着部」の一例である。第3の溶着部群930CAは、本発明に係る「第3の溶着部群」の一例である。第3の隣接溶着部群930CB、931CBは、本発明に係る「第3の隣接溶着部群」の一例である。第1のループ部930L1、931L2は、本発明に係る「第1のループ部」の一例である。第2のループ部930L2、931L2は、本発明に係る「第2のループ部」の一例である。第1の対角線930D1もしくは第2の対角線930D2は、本発明に係る「平行四辺形の対角線」の一例である。第1の溶着連続線930A1、931A1は、本発明に係る「第1の溶着連続線」の一例である。第1の溶着短線932A2、933A2、934A2は、本発明に係る「第1の溶着短線」の一例である。第2の溶着連続線930B1、931B1は、本発明に係る「第2の溶着連続線」の一例である。第2の溶着短線932B2、933B2、934B2は、本発明に係る「第2の溶着短線」の一例である。第3の溶着連続線930C1は、本発明に係る「第3の溶着連続線」の一例である。第3の溶着短線931C2、932C2、933C2、934C2は、本発明に係る「第3の溶着短線」の一例である。第3のループ部931L3は、本発明に係る「第3のループ部」の一例である。第4のループ部931L4は、本発明に係る「第4のループ部」の一例である。第5のループ部931L5は、本発明に係る「第5のループ部」の一例である。胴周り用伸縮性弾性部材500は、本発明に係る「胴周り用伸縮性弾性部材」の一例である。

10

【0115】

以上の本発明の特質に鑑み、以下の各種の構成態様が構築できる。

(態様1)

20

ペット用使い捨ておむつであって、

背側胴周り域と、腹側胴周り域と、該背側胴周り域と腹側胴周り域の間に位置する股下域と、

前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着されていない状態において、前記背側胴周り域と前記股下域と前記腹側胴周り域が連続する方向であるおむつ長手方向と、該おむつ長手方向と交差する方向であるおむつ長手交差方向と、

前記おむつ長手方向上における両端部と、前記おむつ長手交差方向上における両端部と、

前記ペット用使い捨ておむつがペットに装着された状態において、ペット側へ向けられる内側表面と、

30

前記内側表面と対向する表面である外側表面と、

前記おむつ長手方向の所定領域に設けられた尻尾挿通開口と、

前記おむつ長手方向において前記尻尾挿通開口の一方側に形成され、前記股下域と前記腹側胴周り域の所定領域に配置される吸収性コアと、

該吸収性コアが配置されていない領域である吸収性コア非配置領域と、

前記腹側胴周り域に設けられるとともに所定の長さを有する止着部と、

該止着部に設けられたフック部と、

前記背側胴周り領域の前記外側表面に設けられるとともに前記止着部の前記フック部を受ける止着領域と、

を有し、

40

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットへ装着する状態においては、前記背側胴周り域が前記ペットの背に密接されつつ、前記股下域および前記腹側胴周り域が前記ペットの股間乃至腹に被覆されるとともに、前記止着部が前記止着領域に止着され

前記ペット用使い捨ておむつを前記ペットが装着している状態においては、排泄時の前記吸収性コアの重量が前記止着部の長手方向で受けられ、

前記止着領域が、少なくとも前記背側胴周り域の前記吸収性コア非配置領域における前記おむつ本体部の外側表面に配置された不織布による第1の止着領域にて形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様2)

態様1に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

50

前記おむつ長手交差方向において、前記おむつ長手交差方向上の両端部を結んだ仮想直線の内、最も短い仮想直線となる前記おむつ長手交差方向上の両端部における点である一対のおむつ最短幅点と、

該一対のおむつ最短幅点を通過するおむつ長手方向における直線である一対の仮想境界線と、

該一対の仮想境界線同士の内側領域である本体部と、

前記背側胴周り領域における前記一対の仮想境界線の外側領域に形成された前記背側フラップ部と、

前記腹側胴周り領域における前記一対の仮想境界線の外側領域に形成された前記腹側フラップ部と、を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

10

(態様3)

態様1または2のいずれか1項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域と前記止着部の前記フック部の係合力が10～18Nの係合力であること特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様4)

態様1～3のいずれか1項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域が、前記外側表面の全体に配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様5)

態様1～3のいずれか1項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域が、前記背側胴周り域における前記おむつ本体部と前記背側フラップ部とに亘る前記外側表面に配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

20

(態様6)

態様1～3のいずれか1項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域が、前記背側胴周り域における前記おむつ本体部の前記外側表面に配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様7)

態様1～6のいずれか1項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域における外側表面方向には、前記第1の止着領域よりも前記止着部のフック部との係合力が高く形成された第2の止着領域が配置されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

30

(態様8)

態様1～7のいずれか1項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第1の止着領域は、

熱可塑性繊維と、

第1の方向に延びるとともに、該熱可塑性繊維が溶融されて形成された第1の溶着部と、

複数の前記第1の溶着部により形成される第1の溶着部群と、

該第1の溶着線部の内、隣り合う第1の溶着線により形成される第1の隣接溶着部群と、

40

前記第1の方向と交差する方向である第2の方向に延びるとともに、前記熱可塑性繊維が溶融されて形成された第2の溶着部と、

複数の前記第2の溶着部により形成される第2の溶着部群と、

該第2の溶着部群の内、隣り合う第2の溶着部により形成される第2の隣接溶着部群と、

互いに交差する前記第1の隣接溶着部群と、前記第2の隣接溶着部群とにより囲まれる平行四辺形の領域である圍繞部と、

前記第1の方向および前記第2の方向と交差する方向である第3の方向に延びるとともに、前記熱可塑性繊維が溶融されて形成され、前記圍繞部に配置される第3の溶着部と、

複数の前記第3の溶着部により形成される第3の溶着部群と、

50

該第 3 の溶着部群の内、隣り合う第 3 の溶着部により形成される第 3 の隣接溶着部群と、

前記第 1 の溶着部と前記第 3 の溶着部とに亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部の前記フック部に着脱自在に係止される第 1 のループ部と、

前記第 2 の溶着部と前記第 3 の溶着部とに亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部の前記フック部に着脱自在に係止される第 2 のループ部と、

を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 9)

態様 8 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 3 の方向は、前記囲繞部を形成する前記平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線と平行であることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。 10

(態様 10)

態様 8 または 9 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 3 の溶着部は、前記囲繞部を形成する前記平行四辺形の対角線の内、いずれか一方の対角線上に形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 11)

態様 8 ～ 10 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記囲繞部は、一片の長さが 2 ～ 10 mm の範囲にあることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 12)

態様 8 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 1 の溶着部は、連続した線状である第 1 の溶着連続線により形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 13)

態様 8 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 1 の溶着部は、間隔を空けて連続して配置された第 1 の溶着短線の集合体により形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 14)

態様 13 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 1 の隣接溶着部における前記第 1 の溶着短線が、互いに重なり合うことを特徴とするペット用使い捨ておむつ。 30

(態様 15)

態様 13 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 1 の隣接溶着部における前記第 1 の溶着短線が、互いに重ならないことを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 16)

態様 8 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 2 の溶着部は、連続した線状である第 2 の溶着連続線により形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 17)

態様 8 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 2 の溶着部は、間隔を空けて連続して配置された第 2 の溶着短線の集合体により形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。 40

(態様 18)

態様 17 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 2 の隣接溶着部における前記第 2 の溶着短線が、互いに重なり合うことを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 19)

態様 17 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 2 の隣接溶着部における前記第 2 の溶着短線が、互いに重ならないことを特徴と 50

するペット用使い捨ておむつ。

(態様 2 0)

態様 8 ～ 1 0 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 3 の溶着部は、連続した線状である第 3 の溶着連続線により形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 2 1)

態様 8 ～ 1 0 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 3 の溶着部は、間隔を空けて連続して配置された第 3 の溶着短線の集合体により形成されていることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 2 2)

態様 2 1 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 3 の隣接溶着部における前記第 3 の溶着短線が、互いに重なり合うことを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 2 3)

態様 2 1 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 3 の隣接溶着部における前記第 3 の溶着短線が、互いに重ならないことを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 2 4)

態様 2 1 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 1 の溶着部から、前記第 3 の溶着部における前記第 3 の溶着短線同士の間隔を経由して前記第 2 の溶着部に亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部の前記フック部に着脱自在に係止される第 3 のループ部を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 2 5)

態様 2 1 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 1 の隣接溶着部における一方の第 1 の溶着部から、前記第 3 の溶着部における前記第 3 の溶着短線同士の間隔を経由して他方の第 1 の溶着部に亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部の前記フック部に着脱自在に形成される第 4 のループ部を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 2 6)

態様 2 1 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 2 の隣接溶着部における一方の第 2 の溶着部から、前記第 3 の溶着部における前記第 3 の溶着短線同士の間隔を経由して他方の第 2 の溶着部に亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部の前記フック部に着脱自在に形成される第 5 のループ部を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。だ

(態様 2 7)

態様 8 ～ 2 6 に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記隣接する囲繞部間に亘る前記熱可塑性繊維により形成され、前記止着部のフック部に着脱自在に形成される第 6 のループ部を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 2 8)

態様 8 ～ 2 7 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記第 1 の溶着部と、前記第 2 の溶着部と、前記第 3 の溶着部とが前記止着領域の前記外側表面から窪んだ状態にあることを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

(態様 2 9)

態様 1 ～ 2 8 のいずれか 1 項に記載されたペット用使い捨ておむつにおいて、

前記背側胴周り域における前記吸収性コア非配置領域の前記おむつ長手交差方向に、伸長状態で配置される胴周り用伸縮性弾性部材を有することを特徴とするペット用使い捨ておむつ。

【符号の説明】

10

20

30

40

50

【0116】

10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、
23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、3
6、37、38、1000 ペット用使い捨ておむつ

10A、11A、12A、13A、14A、15A、16A 識別領域

10A1 第1の延出識別領域

10A11 第1の仮想線

11A1 第2の延出識別領域

12A1 配色識別領域

13A1、14A1、15A1、16A1 視認領域

10

13A2 光線透過識別領域

14A2 切欠き識別領域

15A2 第1の開口識別領域

16A2 第2の開口識別領域

16A22 蓋領域

100A おむつ長手交差方向上の端部

100AP おむつ最短幅点

100P おむつ中心点

100Y1 フラップ境界線

100Y2 おむつ長手方向中心線

20

100Z1 内側表面

100Z2 外側表面

110、1110 腹側胴周り域

110A、1110A 腹側端部

110AP 腹側端部中心点

120、1120 股下域

120A 脚周り端部

130、1130 背側胴周り域

130A、1130A 背側端部

130AP 背側端部中心点

30

140A フラップ部

140B 本体部

150、1150 腹側フラップ部

150A おむつ長手方向交差方向上端部

150A1 第5の仮想線

150B、1150B 背側端部

150L 腹側フラップ部におけるおむつ長手交差方向の長さ

160、161、162、163、164、1160 背側フラップ部

160B、161B、162B、163B 背側フラップ部における長手交差方向上の
端部

40

160B1、161B1、162B1、163B1 極大領域

160L 背側フラップ部におけるおむつ長手交差方向の長さ

170 吸収性コア非配置領域

171 腹側起立領域

172 背側起立領域

173 股下起立領域

180 収縮力交差領域

181 第1の収縮力交差領域

182 第2の収縮力交差領域

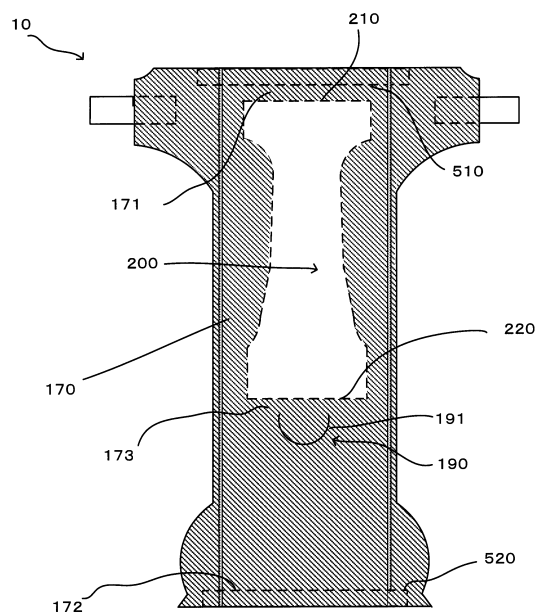
183 第2の湾曲部

50

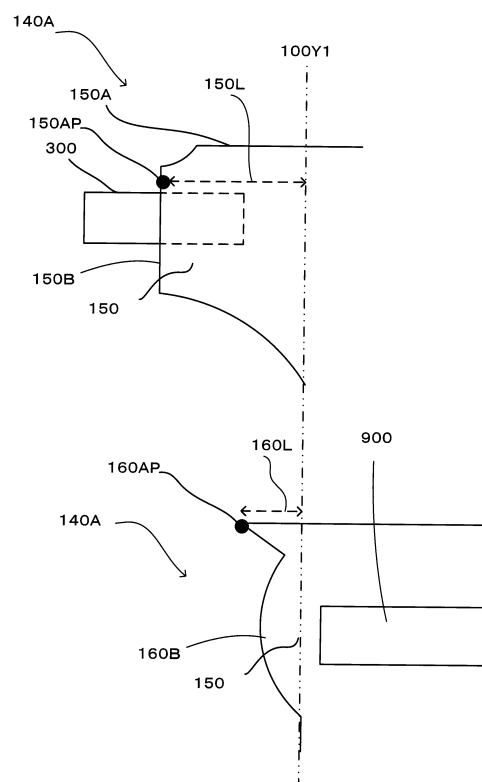
184	第2の腹側湾曲部	
185	第2の背側湾曲部	
190、1190	尻尾挿通開口	
191	開口用切込み	
200、2000	吸収性コア	
210	腹側端部	
220	背側端部	
230	おむつ長手交差方向側端部	
300、301、302、303、304、3000	止着部	
300C1	第4の仮想線	10
310	自由部	
320	固定部	
300P1	止着部中間点	
300P2	最短直線点	
300L	最短直線距離	
300X	止着部長手方向	
300Y	止着部長手交差方向	
400、401A、401B、401C、402、402A、402B、403、404、405、406、407、408、4000	脚周りに用伸縮性弾性部材	
410、4410	脚周りギャザー	20
420	第4の湾曲部	
500	胴周りに用伸縮性弾性部材	
510、511、512、513、514	腹側胴周りに用伸縮性弾性部材	
520	背側胴周りに用伸縮性弾性部材	
530	胴周りギャザー	
540	第1の湾曲部	
541	第1の腹側湾曲部	
542	第1の背側湾曲部	
600、601、602、603、604、605、6000	防漏シート用伸縮性弾性部材	30
610	収縮力固定部	
620	腹側収縮力固定部	
630	背側収縮力固定部	
640	第3の湾曲部	
700	起立部	
710	腹側起立部	
720	背側起立部	
730	股下側起立部	
740	起立シート	
800、8000	防漏シート	40
810	折り返し部	
820	防漏壁	
830	防漏シート固定部	
840	防漏ギャザー	
850	排泄物収容空間	
900、901、902、903、904、905、906、907、9000	止着領域	
900A、901A、902A、903A、904A、905A、906、A、907A	第1の止着領域	
900B、901B、902B	第2の止着領域	50

9 0 0 B C 1	第 2 の仮想線	
9 1 0	液透過性シート	
9 2 0	液抵抗性シート	
9 3 0	外層シート	
9 3 0 A、9 3 1 A、9 3 2 A、9 3 3 A、9 3 4 A	第 1 の溶着部	
9 3 0 A A	第 1 の溶着部群	
9 3 0 A B、9 3 1 A B、9 3 2 A B	第 1 の隣接溶着部群	
9 3 0 A 1、9 3 1 A 1	第 1 の溶着連続線	
9 3 2 A 2、9 3 3 A 2、9 3 4 A 2	第 1 の溶着短線	
9 3 0 B、9 3 1 B、9 3 2 B、9 3 3 B、9 3 4 B	第 2 の溶着部	10
9 3 0 B A	第 2 の溶着部群	
9 3 0 B B、9 3 1 B B、9 3 2 B B	第 2 の隣接溶着部群	
9 3 0 B 1、9 3 1 B 1	第 2 の溶着連続線	
9 3 2 B 2、9 3 3 B 2、9 3 4 B 2	第 2 の溶着短線	
9 3 0 C、9 3 1 C、9 3 2 C、9 3 3 C、9 3 4 C	第 3 の溶着部	
9 3 0 C A	第 3 の溶着部群	
9 3 0 C B、9 3 1 C B	第 3 の隣接溶着部群	
9 3 0 C 1	第 3 の溶着連続線	
9 3 1 C 2、9 3 2 C 2、9 3 3 C 2、9 3 4 C 2	第 3 の溶着短線	
9 3 0 D、9 3 1 D、9 3 2 D、9 3 3 D、9 3 4 D	囲繞部	20
9 3 0 D 1、9 3 0 D 2	平行四辺形の対角線	
9 3 0 L 1、9 3 1 L 2	第 1 のループ部	
9 3 0 L 2、9 3 1 L 2	第 2 のループ部	
9 3 1 L 3	第 3 のループ部	
9 3 1 L 4	第 4 のループ部	
9 3 1 L 5	第 5 のループ部	
D 1	おむつ長手方向長さ	
D 2	測定長さ	
D 1 5 0	第 6 の仮想線	
D 1 6 0	第 3 の仮想線	30
F 1	脚周用伸縮性弾性部材の収縮力	
F 2	胴周用伸縮性弾性部材の収縮力	
F 3	収縮力交差領域にかかる収縮力	
X	おむつ長手交差方向	
Y	おむつ長手方向	
α	ペット	
α 1	ペットの脚	
α 2	ペットの背	
α 3	ペットの腹	

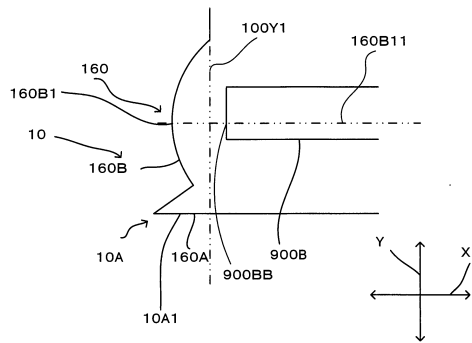
【図 2】



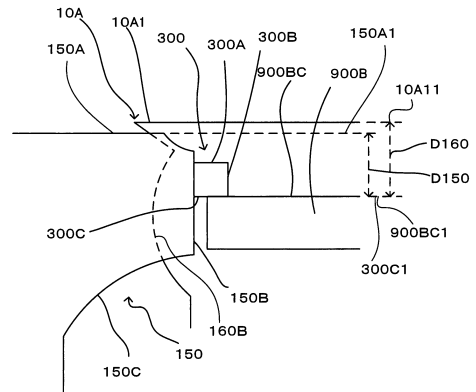
【图 4】



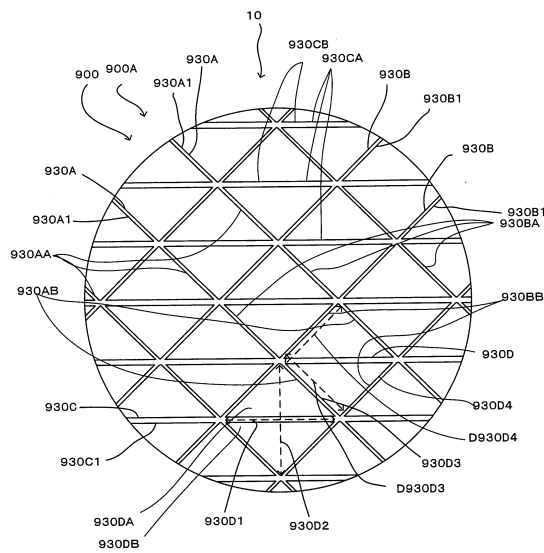
【図 5】



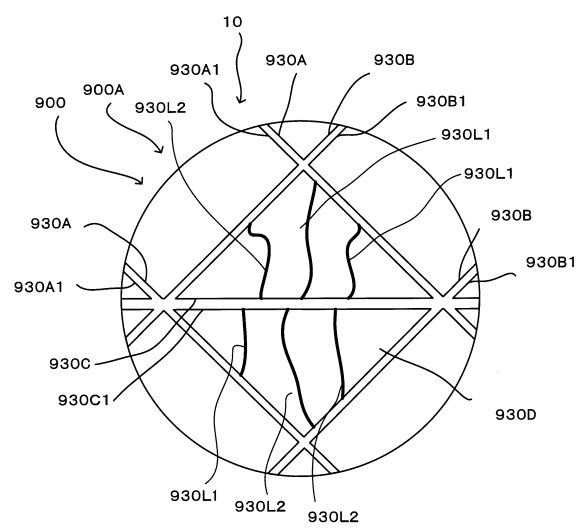
【図 6】



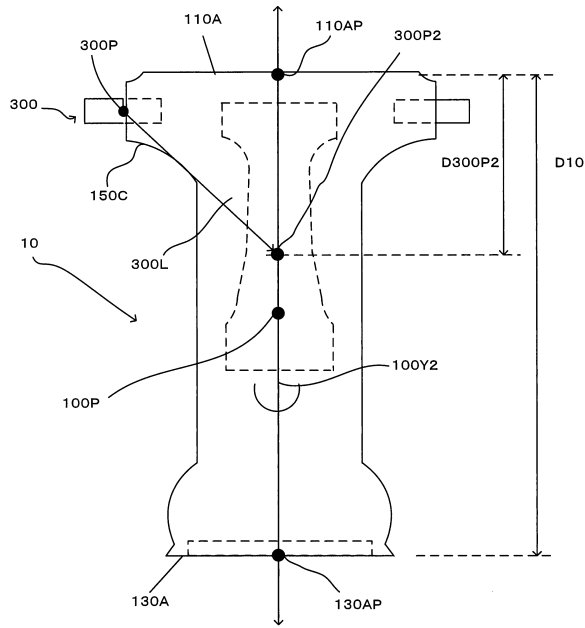
【図 7】



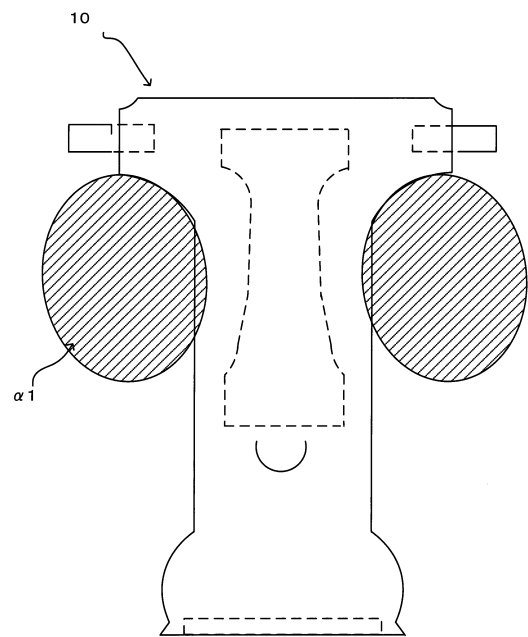
【図 8】



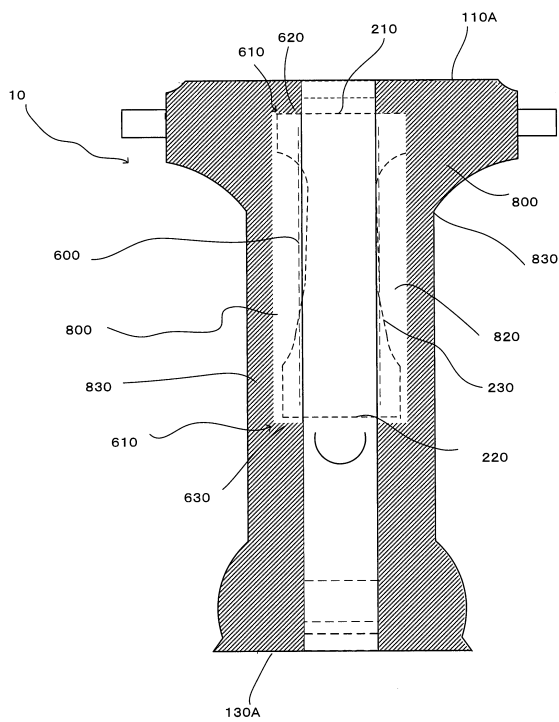
【図 9】



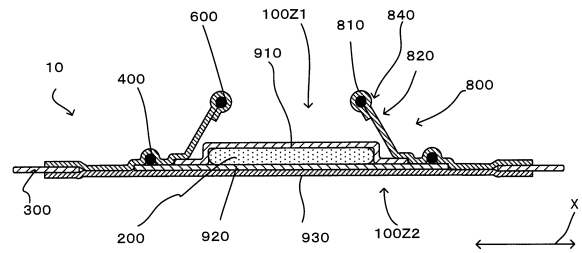
【図 10】



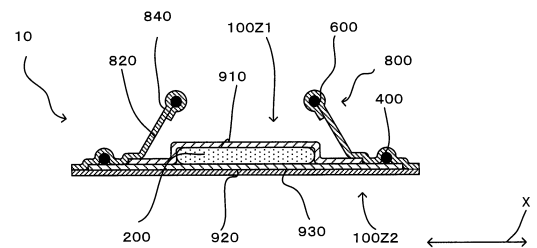
【図 11】



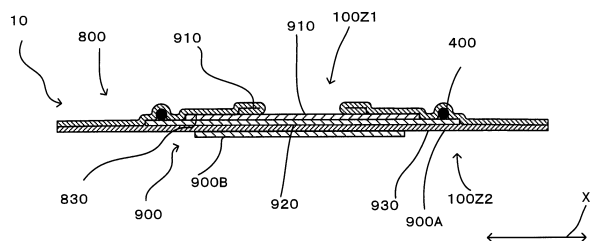
【図 12】



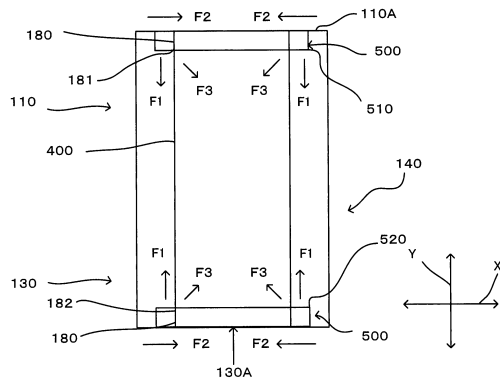
【図 13】



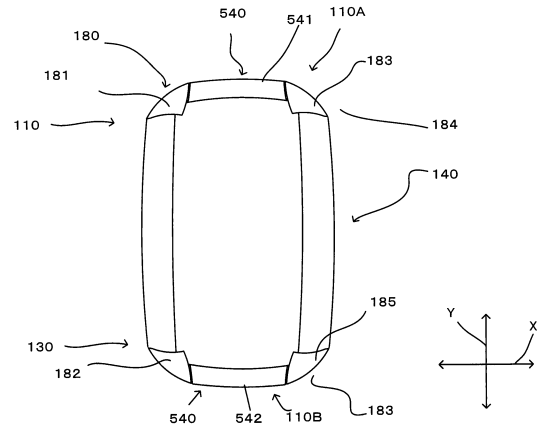
【図 14】



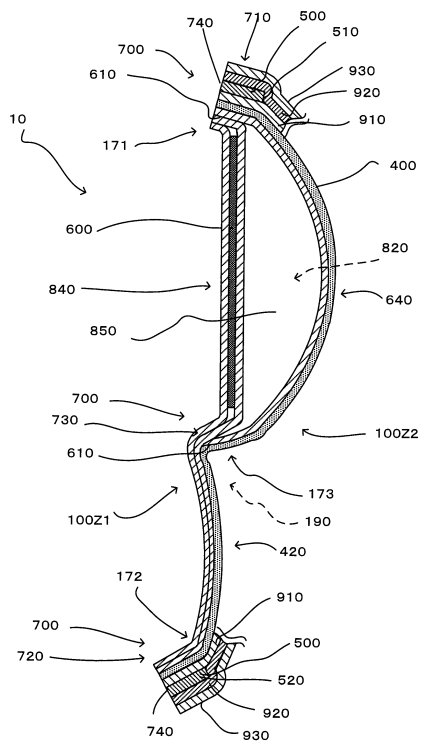
【図 15】



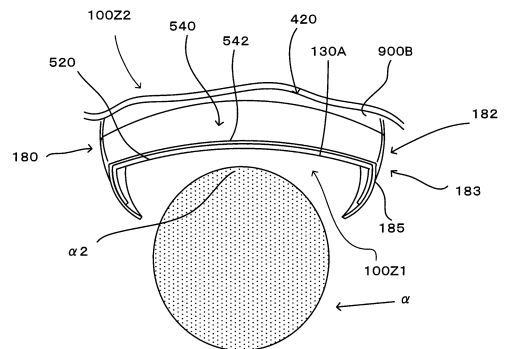
【図 16】



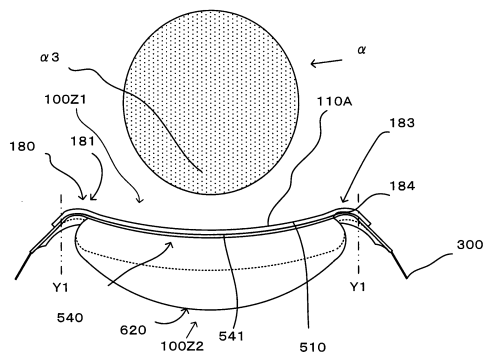
【図 17】



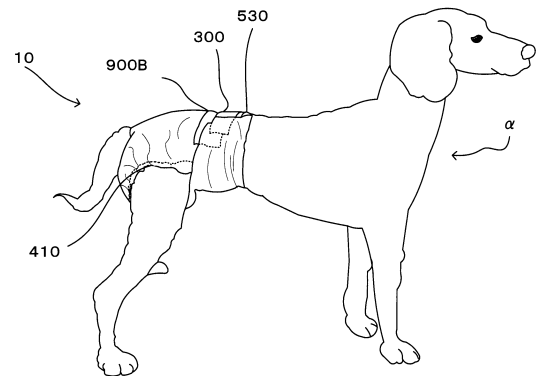
【図 18】



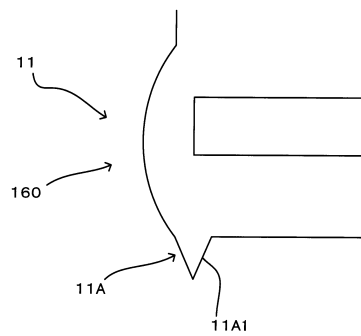
【図 19】



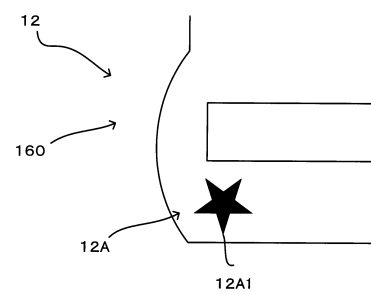
【図 20】



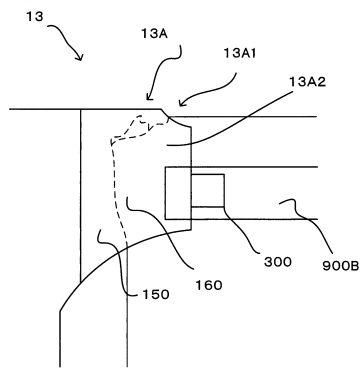
【図 21】



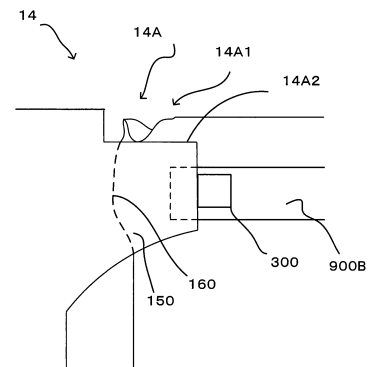
【図 22】



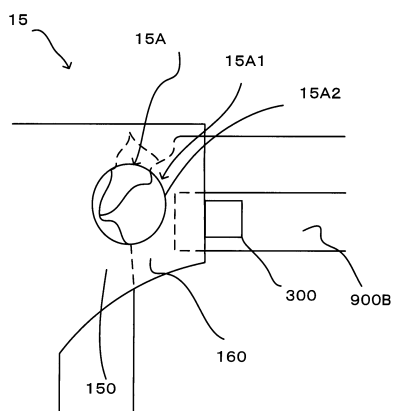
【図 2 3】



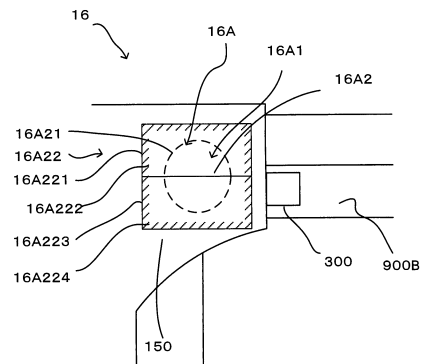
【図 2 4】



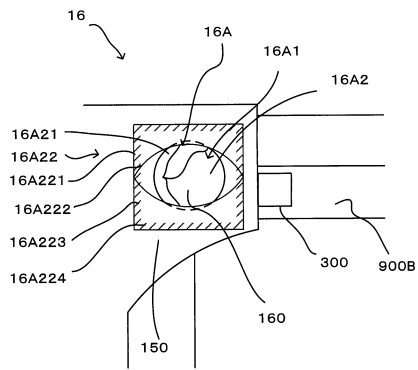
【図 2 5】



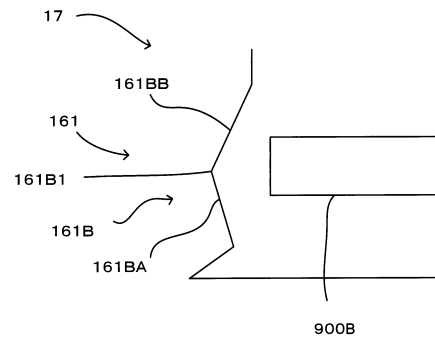
【図 2 6】



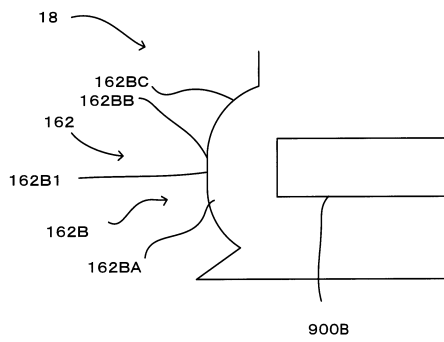
【図 27】



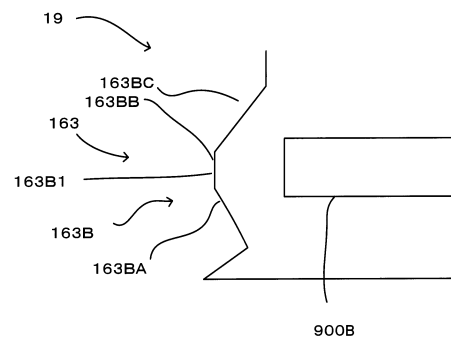
【図 28】



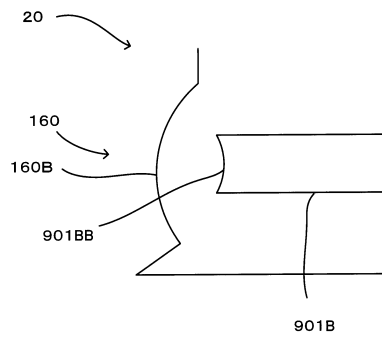
【図 29】



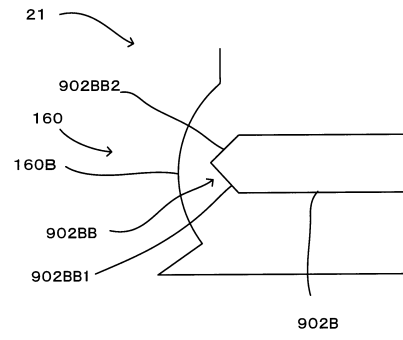
【図 30】



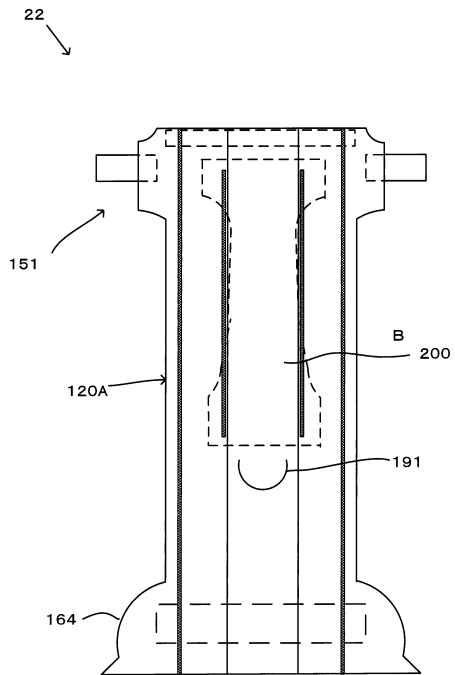
【図 3 1】



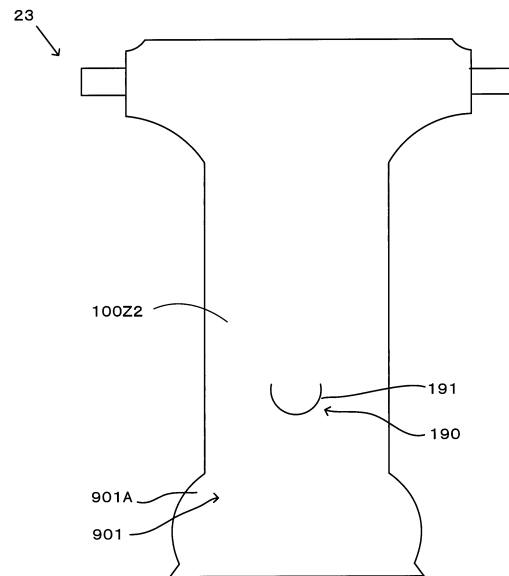
【図 3 2】



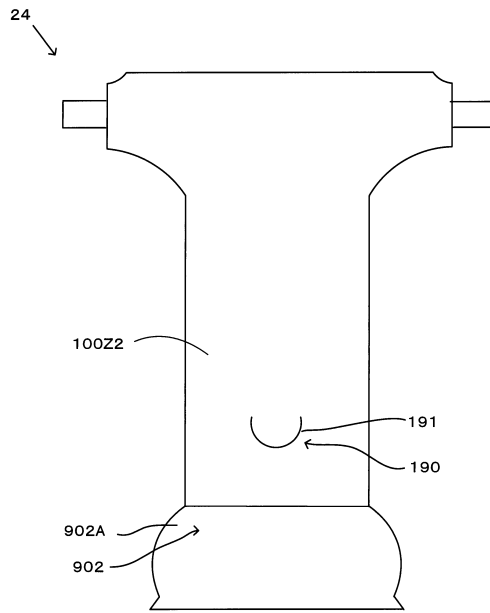
【図 3 3】



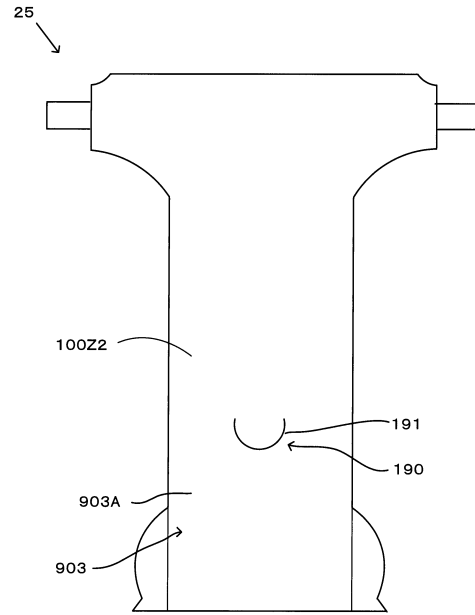
【図 3 4】



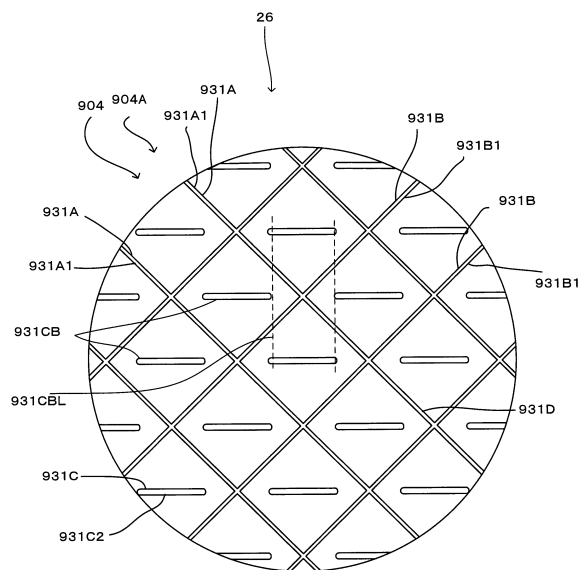
【図 3 5】



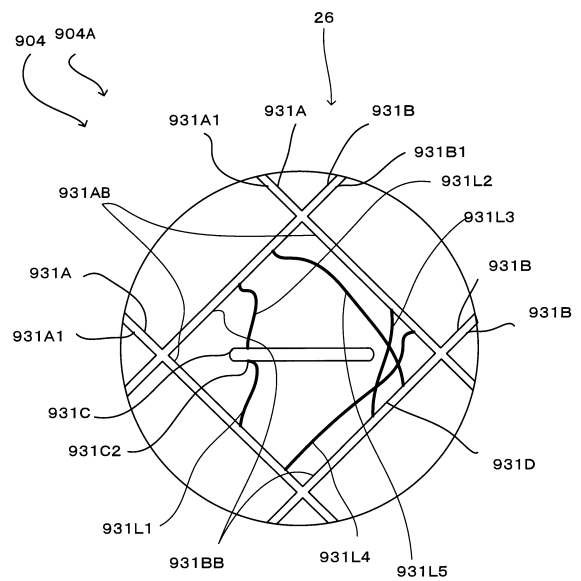
【図 3 6】



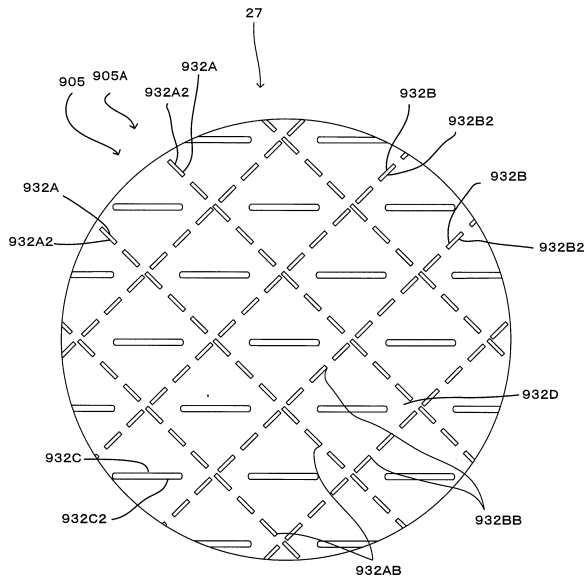
【図 3 7】



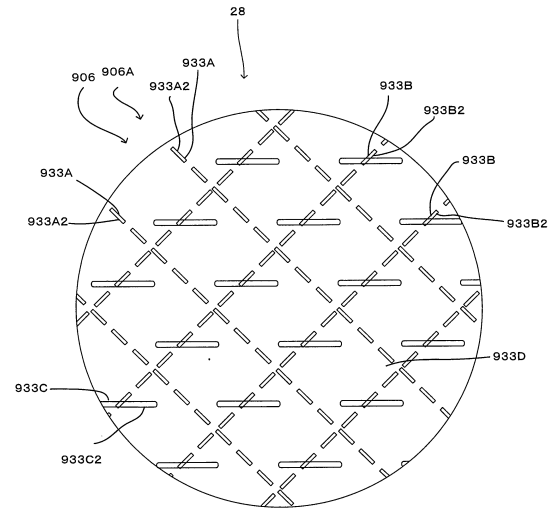
【図 3 8】



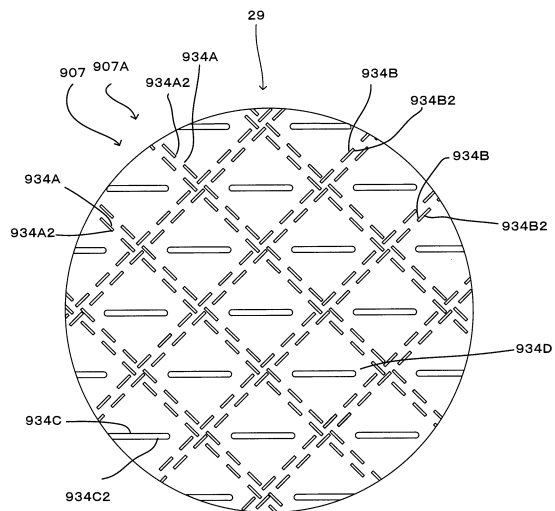
【図 3 9】



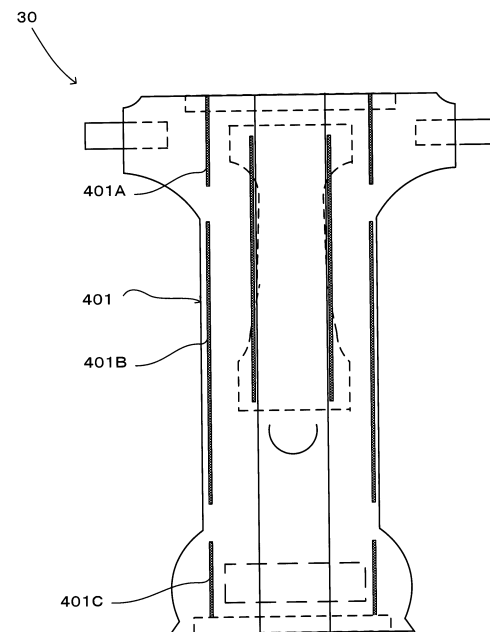
【図 4 0】



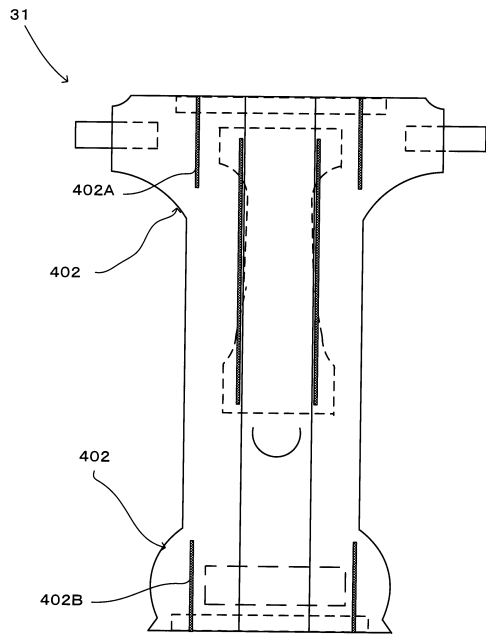
【図 4 1】



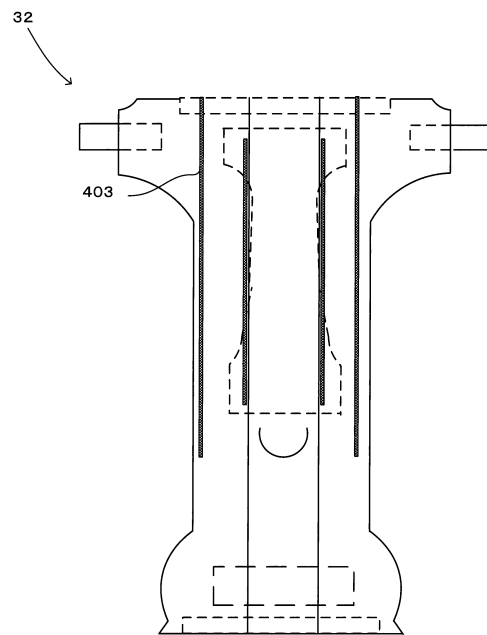
【図 4 2】



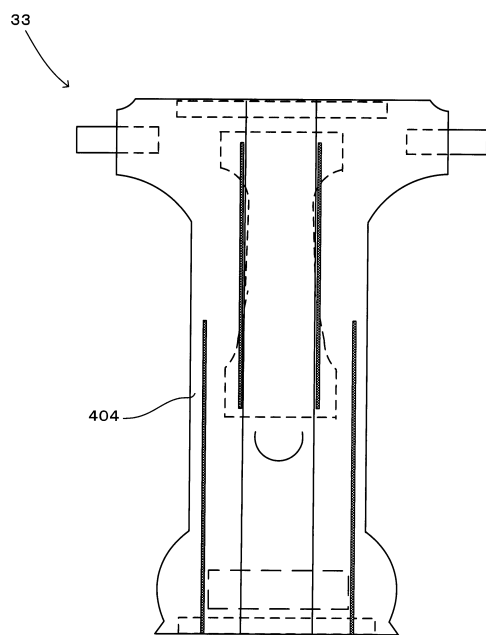
【図 4 3】



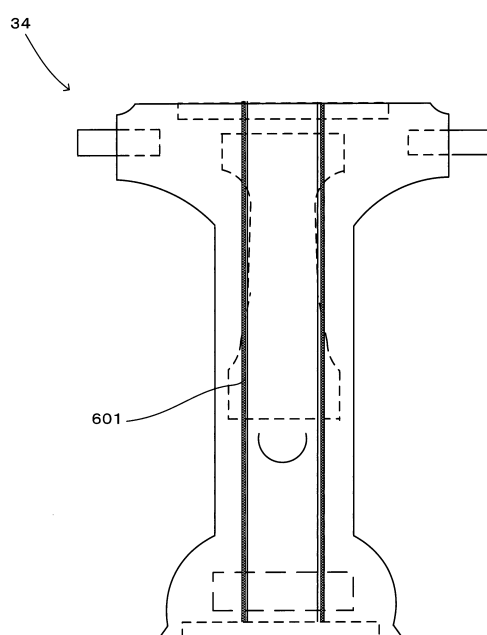
【図 4 4】



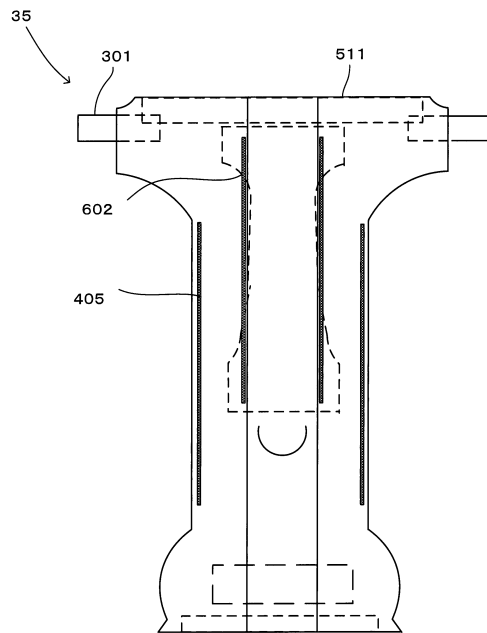
【図 4 5】



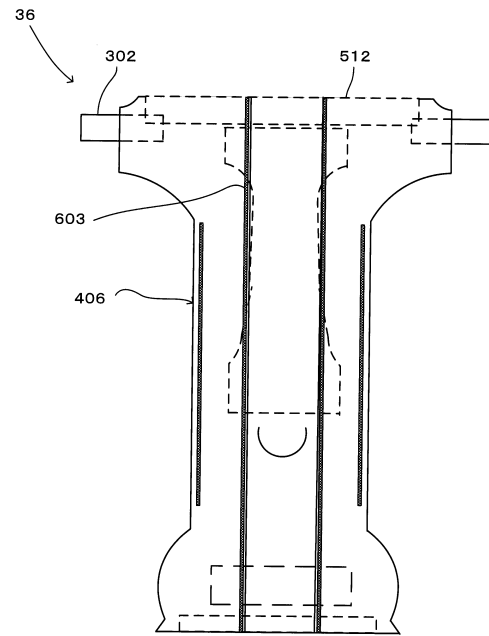
【図 4 6】



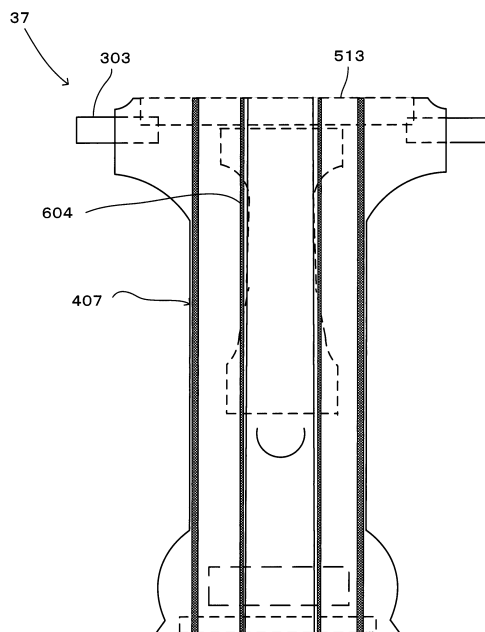
【図 4 7】



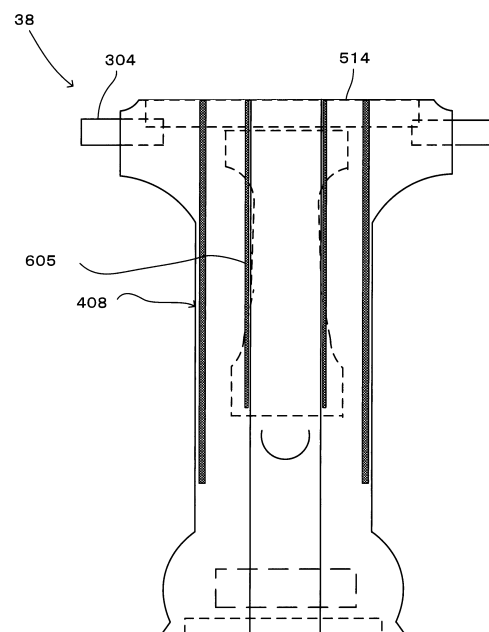
【図 4 8】



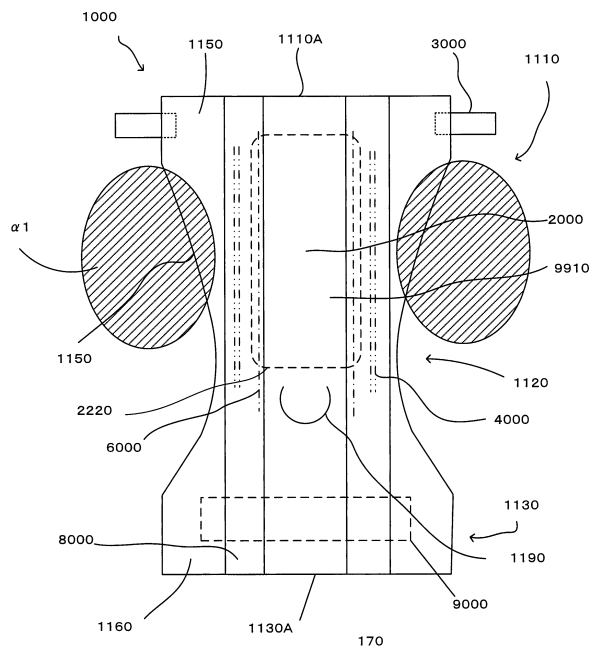
【図 4 9】



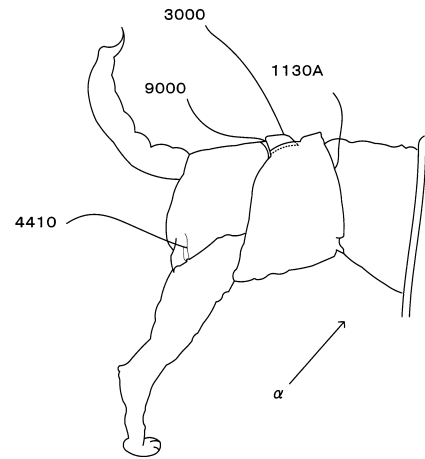
【図 5 0】



【図 5 1】



【図 5 2】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特許第4445422 (JP, B2)
特開2006-281545 (JP, A)
特開2006-34872 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A01K 23/00
A61F 13/15
A44B 18/00